

(文部科学省「教育関係共同利用拠点事業」)

令和7年度 教育関係共同利用拠点事業報告書

(拠点名)

人と海の持続的共存・発展を目指した
On-ship 里海教育共同利用拠点

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸

令和8年6月

報告書目次

令和7年度報告

第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

(1) シラバス	1
(2) 受講者・参加大学	3
(3) 実習風景	4
(4) 受講生によるアンケート評価	5

2. 里海フィールド演習

(1) シラバス	12
(2) 受講者・参加大学	14
(3) 実習風景	15

3. 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習

(1) シラバス	16
(2) 受講者・参加大学	18

4. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

(1) シラバス	19
(2) 受講者・参加大学	21
(3) 実習風景	22

5. With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム

(1) シラバス	23
(2) 受講者・参加大学	27
(3) 実習風景	28
(4) 受講生によるアンケート評価	30

6. 受講生の負担金額

7. 成績評価	34
	36

第2章 共同利用の実績

他大学等共同利用状況	37
練習船共同利用拠点化における乗船実績	39
運航実績表	42

第3章 共同利用の実施に係る経費

特別経費（教育関係共同利用実施分）	43
-------------------	----

第4章 共同利用に係る検討会議の状況

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会	44
-----------------------------	----

（参考資料）

1. 教育関係共同利用拠点に関する法令等	
（1）教育関係共同利用拠点制度について	48
（2）学校教育法施行規則（抜粋）	49
（3）教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程	50
（4）学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について	52
2. 共同利用に関する広島大学の規則	
（1）練習船豊潮丸運営内規	55
（2）練習船豊潮丸共同利用細則	58
（3）練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ	61
3. 豊潮丸の共同利用の概要	
（1）取組の趣旨・目的	76
（2）拠点の認定理由	77
（3）取組計画	81
（4）実施体制	82
4. 豊潮丸の概要	83

第1章

演習の取組状況

(1) シラバス

《単位互換提供科目詳細 (シラバス)》

* 科目 No.	
----------	--

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部		開催方法	■対面 (練習船豊潮丸)	
				□オンライン (同時・録画・資料提示)	
				□その他 ()	
2. 正式科目名 副題	瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習		配当年次	1 年次	
			受入学年	1、2、3 年	
学問分野	番号	33	名称	水産学	
3. 担当教員名	中口 和光				
4. 単位数	2 単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2025 年 6 月 27 日 (金) ~ 2025 年 6 月 30 日 (月)				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要とする科目」 () ・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	12 人	9. 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」による乗船実習を経験する中で、里海を育ててきた瀬戸内海域の文化・漁業・水産の試験研究を視察するとともに、海洋調査を経験することにより、里海瀬戸内海への理解を深めることを目的とする。</p> <p>6/27(金) : 広島大学生物生産学部附属練習船基地、乗船・出港、船内生活説明・訓練、漁船操業の視察と船内講義、釣り実習 (三枚おろし)、愛媛県今治市大三島宮浦沖錨泊</p> <p>6/28(土) : 宮浦港入港、伯方塩業大三島工場見学、大三島海事博物館見学等</p> <p>6/29(日) : 大三島宮浦出港、大崎下島御手洗 (潮待ちの港町) 視察、海洋観測、釣り実習 (三枚おろし)、船内講義 (演習、体験発表会)</p> <p>6/30(月) : なぎさ水族館見学 (周防大島)、船内清掃、昼食、修了式後下船 (14:00 頃)</p> <p>* 寄港先の都合等により、予定に変更が生じる場合がある。</p>				
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点、発表とレポート 50 点で評価する。				
12. 別途負担費用	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業期間中の食事代*、シーツ洗濯代として 5,000 円程度を徴収します。 *2 日目昼食代は含まれません (上陸後各自での昼食となります)。 ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。 ● 実習にかかるその他経費についてはこちらで負担します。 				

<p>13. その他特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合時刻：開催当日（6月27日）は、昼食を済ませておいてください 13:00 までに広島大学生物生産学部附属練習船基地（呉市宝町 7-4） ● 持参物：医療保険証、着替え、運動靴（甲板作業はスリッパ類不可）、雨具（傘）、作業着上下（長袖、長ズボン）、筆記用具、洗面具、タオル類等（長靴とカッパは貸与しません。船内での洗濯可）、釣り具（持っていれば） ● 傷害保険：事前に学生教育研究災害傷害保険（財団法人日本国際教育支援協会）相当の傷害保険に加入しておいてください。 ● やむなく欠席する場合は、開催 10 日前までに広島大学生物学系支援室（学士課程担当）まで申し出てください。直前にやむなく欠席・遅刻する場合も、必ず連絡してください。 ● 豊潮丸は全面禁煙です。船内での喫煙は認められません。 ● 本授業科目は、広島大学生物生産学部、広島大学他学部、他大学学生のために開講されるものです。 ● https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/（豊潮丸ホームページ） <p>【問合せ・連絡先】（E-mail：★を@に変換してください）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739-8528 東広島市鏡山 1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien★office.hiroshima-u.ac.jp ● 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸 〒737-0029 呉市宝町 7-4 TEL：080-1926-4877、090-3022-4347 E-mail：toyoshio★hiroshima-u.ac.jp 		
<p>14. 社会人受講</p>	<p>科目等履修生（単位付与）として受け入れ</p>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
	<p>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</p>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性 9名 女性 5名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	生物生産学部	B2	女
2	福山大学	生命工学部	B2	女
3	福山大学	生命工学部	B2	男
4	福山大学	生命工学部	B2	男
5	福山大学	生命工学部	B2	女
6	福山大学	生命工学部	B2	男
7	福山大学	生命工学部	B2	男
8	福山大学	生命工学部	B2	男
9	福山大学	生命工学部	B2	男
10	福山大学	生命工学部	B2	男
11	福山大学	生命工学部	B2	男
12	福山大学	生命工学部	B2	女
13	福山大学	生命工学部	B2	女
14	広島文教大学	教育学部	B3	男

(3) 実習風景

2025年6月27日から30日まで、洋上里海総合演習航海を行いました。

中国地方では6月27日に記録的に早い梅雨明けがあり、この4日間は暑さ対策が必要な実習となりました。

広島大学の他に、福山大学や広島文教大学の学生も乗船し、宮浦港に寄港して伯方の塩工場や海事博物館、大山祇神社を見学しました。交通艇を利用して御手洗港やなぎさ水族館にも訪れました。船上では海洋観測を行い、実際に採集したプランクトンの観察やCTDデータを通じて瀬戸内海の現状を学びました。

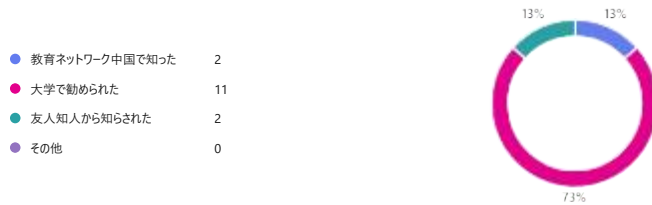
海洋観測で得られたものに興味を持つ学生が多く、様々な話を交わしました。有意義な実習となりました。



(4) 受講生によるアンケート評価

応答の概要
13 応答

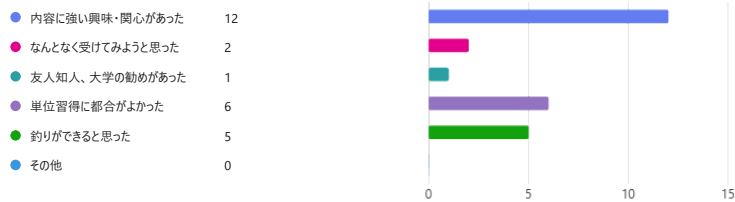
1. あなたはどのようにしてこの科目があることを知りましたか。(複数回答可)



2. 質問1で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。

0 応答

3. なぜこの科目を受講しようと思いましたか。(複数回答可)



4. 質問3で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。

0 応答

5. 受講してみて魚のさばき方の印象はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)

4.00
平均評価
★★★★

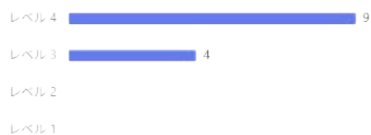


第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

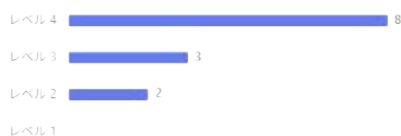
6. 伯方塩業大三島工場の見学はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)



7. 大三島海事博物館の見学はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)



8. 大崎下島御手洗の町並み視察はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)



9. ST-1,2海洋観測とその分析についてはいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)



10. なぎさ水族館の見学はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
 - ★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり面白くなかった
 - ★まったく面白くなかった
- (0 点数)



第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

11. 釣り、生物採集はいかがでしたか？

- ★★★★良かった、興味深かった
- ★★★まあまあ良かった
- ★★あまり面白くなかった
- ★まったく面白くなかった (0 点数)

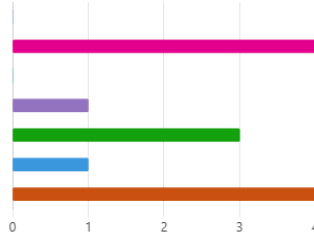
3.69

平均評価



12. 最も良かったと思う内容を一つ選択してください。

- 魚のさばき方 0
- 伯方塩業大三島工場の見学 4
- 大三島海事博物館の見学 0
- 大崎下島御手洗の町並み視察 1
- ST-1,2海洋観測とその分析 3
- なぎさ水族館の見学 1
- 釣り、生物採集 4



13. 質問12の理由を書いてください。

13

応答

(伯方塩業大三島工場の見学)

- ・身近な塩の制作工程を知れたことが、とても有意義だったから。
- ・いつも使っているものが出来ていくのを見るのは楽しかったです。
- ・見学が面白かったから。ソフトクリームが美味しかったから。
- ・ソフトクリームやコーラが美味しかった。

(大崎下島御手洗の街並み視察)

- ・尾道のような町並みを見るのが好きでまた来たいと思ったから。

(ST-1, 2海洋観測とその分析)

- ・瀬戸内海の生物と同時に環境も知ることができたため。
- ・実際に自分で集めた情報から瀬戸内海の問題を再確認できたため。
- ・どのような器具を使って、どのような方法で海水や生物の観測をしているのか詳しく知ることが出来たから。

(なぎさ水族館の見学)

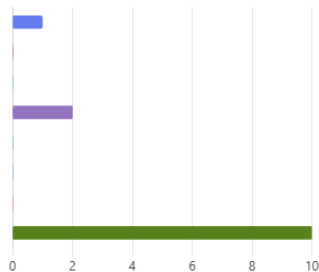
- ・普段行くことが少ない場所にある水族館だったし、ホオジロザメの顎やヒレを見せてもらえたから。

(釣り、生物採集)

- ・初めて釣りをして、釣りの仕方を学ぶことができたため。
- ・人生で初めて船釣りをしてとても良い経験になったから。また、生物採取をしてさまざまな生き物についての知識が増えたから。
- ・船の上からの釣りが初めてで楽しかったから。
- ・マダイを2匹釣ることができたのでとても嬉しかったのと、友人と協力して釣ったので楽しかったです。

14. 最も悪いと感じたのはどれですか？あれば一つ選択してください。

- 魚のさばき方 1
- 伯方塩業大三島工場の見学 0
- 大三島海事博物館の見学 0
- 大崎下島御手洗の町並み視察 2
- ST-1,2海洋観測とその分析 0
- なぎさ水族館の見学 0
- 釣り、生物採集 0
- 特になし 10



第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

15. 質問14.の理由を書いてください。

13

応答

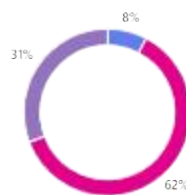
(魚のさばき方)
・声が全く聞こえなかった。

(大崎下島御手洗の街並み視察)
・歴史があることは間違いでは無いがわざわざ訪れるほどでは無いと判断しました。
・コンビニなどが全くなく、お店もまだ空いてなく、炎天下の中だったので。

(特になし)
・どれを取っても非常に有意義な時間だったと感じたから。
・どの実習も楽しく学ぶことができたため。
・すべて良かったから。
・どれも学びがあつて良かったから。
・全部良かったから。
・すごく充実していたから。
・悪いところが一つもなかった。
・悪いと感じるものはなかった。
・特にはないです。
・特にはないから。

16. 参加費はいかがでしたか。

● 高い	1
● 丁度良い	8
● 安い	0
● よくわからない	4



17. 質問16.で『高い』、『安い』と回答された方はいくら位だったら良いか書いてください。

1

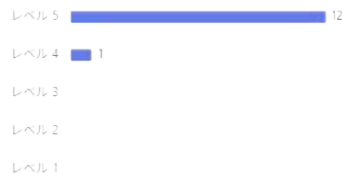
応答

・工場のお土産や現地の昼食代などを購入しなければならないので10000円は必要だと感じた。

18. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【はじめの自己紹介】

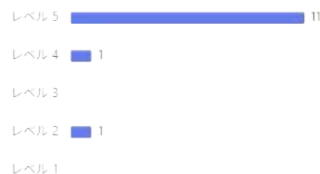
★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



19. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【実習内容についての説明】

★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)

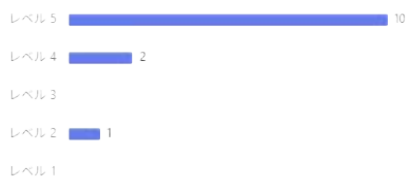


第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

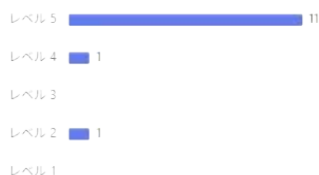
20. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。
【実習のスケジュール組み】

- ★★★★親切で的確であった
 - ★★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり良くなかった/有効でなかった
 - ★全くよくなかった
- (0 点数)



21. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。
【豊潮丸の船員の説明、指示、指導】

- ★★★★親切で的確であった
 - ★★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり良くなかった/有効でなかった
 - ★全くよくなかった
- (0 点数)



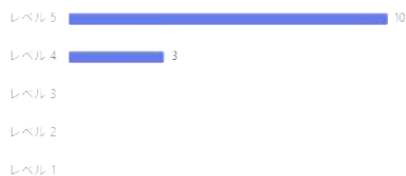
22. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。
【作成すべきレポートの内容や量、サポート】

- ★★★★親切で的確であった
 - ★★★★まあまあ良かった
 - ★★あまり良くなかった/有効でなかった
 - ★全くよくなかった
- (0 点数)



23. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。
【海洋観測時採集生物のソーティング作業】

- ★★★★親切で的確であった
- ★★★★まあまあ良かった
- ★★あまり良くなかった/有効でなかった
- ★全くよくなかった (0 点数)



24. 質問20.~23.においてコメントがあれば書いてください。

3
応答

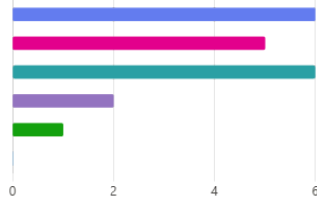
- ・優しく丁寧に教えてくださりありがとうございました。
- ・エンジン音で声が聞こえないことがあった。
- ・特にありません。

第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

25. 豊潮丸に乗船してどうでしたか、船内生活は快適でしたか。(複数回答可)

● 快適であった	6
● まあまあ、良かった	5
● 普段経験できないことで、楽しかった	6
● ベッドが狭く小さかった	2
● あまり良くなかった	1
● 全く良くなかった	0



26. 質問25において、コメントがあれば書いてください。

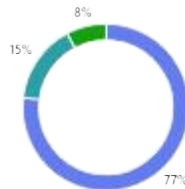
5

応答

- ・ご飯がとてもおいしかったです。
- ・学生用のインターネットが欲しい。学生用のインターネット環境がない場合は事前にシラバスで告知して欲しい。
- ・ネット関係が脆弱である。船員の方も気にしていたのでサポートをお願いします。
- ・風呂場の椅子を3人分設けてほしい。
- ・特にありません。

27. 3泊4日の日程はどうですか。

● 丁度良い	10
● 長い	0
● 短い	2
● 2泊3日程度にして、帰ってレポートでもいいのでは	0
● よくわからない	1



28. 質問27で『長い』、『短い』と回答された方は、何日程度であれば良いと思いますか。

2

応答

- ・一週間
- ・一週間程度

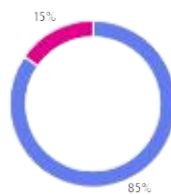
29. こういった科目を来年度以降も開講したほうが良いと思いますか。

● そう思う	13
● 別に思わない	0
● どちらでも良い	0
● 内容を大幅に変えた方が良い	0



30. 後輩には、今回の科目の受講をすすめますか。

● 大いにすすめる	11
● まあまあすすめる	2
● 特にすすめない	0
●すすめない	0



第1章 演習の取組状況
1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

31. あなたがまた乗船するとして、どのような実習内容を望みますか。



32. 質問31で『変えた方が良い』と回答した方は具体的に理由を書いてください。

1
応答

・もっと瀬戸内の特色を活かした内容を組み込んでみて良いかもしれないと考えたから。

33. 全体として、今回のこの演習の感想はどうか。



34. この演習について自由にコメントをお願いします。改善点などもあれば書いてください。

13
応答

・普段なかなかできない生活をさせていただきありがとうございます。講義で聞いた話を実際にこの目で見る事ができたのでとても良い実習だと思います。
 ・私の同級生にも是非勧めたいので、他大学の4年生にも受講できるようにシラバスを改定して欲しい。(現シラバスでは3年までしか受講できないように記載がある。) また豊潮丸の授業を受講したいので、可能であれば基礎知識を要せず、4年生でも受講できる科目をこの科目とは別に開講してほしい。
 ・瀬戸内海の現状を学べる良い実習だと思います。
 ・自分にとってとても興味のあることを学べたので、参加して良かったと思った。
 ・とても楽しい3泊4日だった。大三島での自由行動時間が多くて時間が潰れるから配だったが、温泉などに入りたりして満喫できた。
 ・4日間お世話になりました。ありがとうございました。
 ・普段経験できないことができてすごく楽しかった。
 ・とても楽しく、自分にとって良い経験になる場面がたくさんありました。仲間との絆も深まるとても良い演習だと思います。
 ・ありがとうございました。
 ・釣りの仕掛けの作り方の授業もしてほしいです。
 ・楽しい演習をありがとうございました。とても良い経験になりました。
 ・とても良い経験をする事が出来ました。他大学の方とも仲良くなる機会になったし、同じ学科なのに関わったことがない方とも沢山話することが出来ました。3泊4日はあっという間で、しんどいと思っていましたがそんなこともなく、とても楽しく充実した4日間でした。本当にありがとうございました！！

(1) シラバス

実施計画書

授業科目名	(日本語) 里海フィールド演習 (英語) Practice on field science in <i>satoumi</i>																																			
担当教員名	橋本 俊也	和田 茂樹	中口 和光	加藤 亜記	豊田 賢治																															
所属大学	広島大学	広島大学	広島大学	広島大学	広島大学																															
授業形式	講義, 実習, 演習																																			
単位	2単位																																			
開設期	令和7年 8月25日(月) ~ 8月27日(水)																																			
開講場所	広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸 広島大学瀬戸内CN国際共同研究センターブルーイノベーション部門水産実験所																																			
キーワード	内海の生態系, 水圏環境, 干潟, 藻場, 水産																																			
授業目標	瀬戸内海の海洋生物と環境の相互作用およびそれらと人間生活との関係についての基礎的知識を総合的に学び, 体験すること																																			
授業内容・計画など	<p>練習船豊潮丸に乗船し, 広島湾において海洋環境の測定および生物採集方法を船上で学ぶことを通して, 海と人間との関わりを考える。また, 水産実験所周辺にあるアマモ場, 干潟を利用し, そこに生息する生物の採集方法および生物群集を観察する。それらの生物生産を含めた生態系における機能や, 人間からみたこれらの環境の意義と漁業生産も含めた利用のされ方について, 現場観察と室内での講義・実験を通して理解する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">日程</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1日目</td> <td rowspan="4">午後</td> <td>集合(呉), 出港</td> <td>橋本・中口</td> </tr> <tr> <td>講義・海洋観測実習</td> <td>橋本・中口</td> </tr> <tr> <td>水産実験所へ移動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>宿泊:水産実験所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2日目</td> <td>午前</td> <td>竹原海域での実習</td> <td>和田・加藤・豊田</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">午後</td> <td>竹原海域での実習</td> <td>和田・加藤・豊田</td> </tr> <tr> <td>宿泊:水産実験所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3日目</td> <td>午前</td> <td>実習のまとめ</td> <td>和田・加藤・豊田</td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td>解散</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>気象状況などによって日程の大幅な変更があることを了解ください。</p>						日程		内容	担当教員	1日目	午後	集合(呉), 出港	橋本・中口	講義・海洋観測実習	橋本・中口	水産実験所へ移動		宿泊:水産実験所		2日目	午前	竹原海域での実習	和田・加藤・豊田	午後	竹原海域での実習	和田・加藤・豊田	宿泊:水産実験所		3日目	午前	実習のまとめ	和田・加藤・豊田	午後	解散	
日程		内容	担当教員																																	
1日目	午後	集合(呉), 出港	橋本・中口																																	
		講義・海洋観測実習	橋本・中口																																	
		水産実験所へ移動																																		
		宿泊:水産実験所																																		
2日目	午前	竹原海域での実習	和田・加藤・豊田																																	
	午後	竹原海域での実習	和田・加藤・豊田																																	
		宿泊:水産実験所																																		
3日目	午前	実習のまとめ	和田・加藤・豊田																																	
	午後	解散																																		
成績評価	受講態度60点, 発表20点, レポート20点																																			
参考書など	海からの伝言-新せとうち学- (中国新聞社), 干潟のカニの自然誌 (平凡社) 日本動物大百科 第7巻および第6巻 (平凡社), 日本の海藻-基本 284 (平凡社) 里海論 (恒星社厚生閣)																																			
メッセージ	この演習を通して, 里海のあり方, 海の懐の深さ, 大切さ, 人間が海をどのように利用しているかが学べるはずです。																																			

<p>履修上の注意</p>	<ul style="list-style-type: none">● 受講人数：14名（男女ほぼ同数になるよう調整します）● 受講経費：1万円（派遣大学が負担）● 参加費用：約5,000円（食費，シーツ洗濯代など） *現地で徴収 開催場所への旅費は自己負担です。● 履修の辞退は原則できません。やむを得ず辞退する場合にはキャンセル料を支払っていただきます。キャンセル料は，1日前および実施期間中の辞退については参加費用全額（約5,000円）とします。キャンセル料の支払い方法は下記問合先に連絡後，現金書留にて送付してもらいます。● 学生が履修を辞退した場合には，当該学生の派遣大学は，速やかに代替りの学生を推薦する。当該学生の派遣大学に代替りの学生がいない場合には，受入大学が他大学の受講希望者から代替りの学生を選出する。なお，開催4週間前以降に辞退者があった場合は，代替りの学生の推薦・選出は行わない。● 事前に学生教育研究災害傷害保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。● 集合日時：8月25日(月) 12:50（昼食を済ませておいてください）● 集合場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町7-4（電話 0823-23-4853） JR広島駅からJR呉駅約35分（快速），JR呉駅より徒歩約15分 呉中央棧橋ターミナルから徒歩約10分● 解散場所：広島大学瀬戸内CN国際共同研究センターブルーイノベーション部門水産実験所 〒725-0024 広島県竹原市港町5-8-1 3日目（8/27）昼食後（13:30ごろ）に解散し，貸し切りバスでJR竹原駅，JR東広島駅，JR西条駅などへ移動する予定です。<ul style="list-style-type: none">● 各自持参するもの 学生証，医療保険証，運動靴，船酔止薬，水着，作業着（長袖，長ズボン，帽子），水に濡れてもかまわない靴（足がすっぽり守られるものが望ましい），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 *ショートパンツ，ランニングシャツ，サンダル，スリッパ等では作業できません。● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。● 問合先：広島大学生物学系総括支援室 〒739-8528 東広島市鏡山1-4-4 TEL 082-424-4323 FAX 082-424-6480 E-mail sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp● 履修希望学生に対する連絡 履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（thasimt@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，定期的に確認すること。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡すること。 <p>* 様々な感染症の拡大状況や気象状況などにより，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります。</p>
---------------	---

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性 8名 女性 8名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	愛媛大学	農学部	B3	女
2	香川大学	農学部	B3	女
3	香川大学	農学部	B3	女
4	鳥取大学	農学部	B1	男
5	鳥取大学	農学部	B1	女
6	山口大学	農学部	B3	女
7	山口大学	農学部	B3	女
8	山口大学	農学部	B3	男
9	岡山大学	農学部	B1	女
10	岡山大学	農学部	B1	女
11	岡山大学	農学部	B2	男
12	岡山大学	農学部	B3	男
13	岡山大学	農学部	B3	男
14	岡山大学	農学部	B3	男
15	島根大学	生物資源科学科	B1	男
16	島根大学	生物資源科学科	B3	男

(3) 実習風景

里海フィールド演習豊潮丸航海実習を実施しました。

この演習は、瀬戸内海の海洋生物と環境の相互作用およびそれらと人間生活との関係についての基礎的知識を総合的に学び、体験することを目的として、中四国の国公立大学の農学系学部の学生を対象に実施しています。6校（愛媛、香川、鳥取、山口、岡山、島根）から16名の学生が参加しました。参加者の1名は外国人（岡山大学：ミャンマー）でした。

2025年8月25日(月)13:00に練習船呉基地に集合・出港し、音戸の瀬戸を通過後、遭難訓練、海洋環境に関する講義を行い、安芸灘大橋を通過後に大崎上島西海域の観測点で約60分間の海洋観測実習を実施しました。教員、豊潮丸船員の指導のもと、CTDによる水温・塩分の鉛直分布の測定、バンドン採水器による底層水の採取、透明度の測定、海底泥の採取・観察などを行いました。また、操舵室や学生居室などの見学も行いました。

17:00ごろ竹原市明神岸壁に着岸し、参加者は下船しました。参加者は8月27日まで竹原ステーションの教員・TAの指導のもと、干潟調査による生物採集、採集生物の同定などを行う予定です。

わずか半日の航海実習でありましたが、基本的な海洋観測実習を行うことができ、有意義な実習となりました。また、音戸の瀬戸など瀬戸内海の景色を船上から見学することができ、参加者には貴重な体験になりました。今回の参加者の大学では海洋に関する実習をほとんど実施していないことから、初めて練習船に乗る学生がほとんどでした。これを機に海洋環境に関して興味をもってもらえることを期待します。



(1) シラバス

《単位互換提供科目詳細 (シラバス)》

* 科目 No.	
----------	--

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部		開催方法	■対面 (練習船豊潮丸)	
				□オンライン (同時・録画・資料提示)	
				□その他 ()	
2. 正式科目名 副題	飢餓・貧困解決を目指したグローバル 洋上演習		配当年次	2、3年	
			受入学年	2、3年	
学問分野	番号	33	名称	水産学	
3. 担当教員名	小池 一彦				
4. 単位数	1 単位	5. 開講学期	後期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2025年 11月 10日 (月) ~ 2025年 11月 11日 (火)				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要とする科目」 (SDGs に関する基礎知識、英語会話能力) ・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	3 人	9. 選考方法	上級生から受入れ		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>【科目内容】 広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は、令和4年度より第三期教育関係共同利用拠点到に認定され、学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では、タイ・インドネシア等のアセアンの中でも特に水産依存度が高い国々から来日した留学生と共に一泊二日の航海を体験します。特にSDGs 達成に貢献する水産人材を育成することを念頭に置き、瀬戸内海の水産業の見学、漁業者との対談、実際の海洋観測を通じた問題発見から、世界の貧困人口が集中する沿岸域の持続的発展に、水産業がどのように貢献できるか学生同士で議論します。海に根ざした文化を理解するために、重要な文化財であり、沿岸漁業が盛んな大崎下島・御手洗地区への見学も含まれます。 ※全ての内容は英語にて実施します。</p> <p>【授業計画】</p> <p>初日 午前：広島県呉市の練習船基地に集合、出港、船内ガイダンス 午後：安芸灘で漁業現場の見学・漁業者インタビュー、重要伝統的建造物群保存地区である大崎下島の御手洗地区を見学。</p> <p>二日目 午前：広島湾奥から湾口にかけて海洋観測実習；海底の状態の観察、食物連鎖の起点となる植物プランクトン生産量の測定 午後：各国の沿岸域における飢餓・貧困の現状紹介 (事前準備のうえ学生同士のプレゼンテーションを実施)、それを解決する方策の立案 (学生プレゼンテーション)</p>				
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点、計 2 回の船内プレゼンテーション 50 点				
12. 別途負担費用	約 3,430 円 (初日昼食~2 日目昼食まで毎食分、シーツ洗濯代など) ※ 現地で徴収 ※ 乗下船地への旅費は自己負担 ※ 開催 10 日前以降の履修の辞退の場合、食費該当分は支払いが必要				

<p>13. その他特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 豊潮丸運営委員会が定める感染症拡大防止対策に応じ、乗船最大人数、事前健康チェックの内容等が異なります。実習1ヶ月前を目処に、対策レベルに応じた行動要件を通知します。 ● 集合時間（別途通知）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約 35 分（快速）、JR 呉駅より徒歩約 15 分 練習船基地 位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの：医療保険証、運動靴、船酔止薬、作業着（長袖、長ズボン、帽子）、ノート PC（必須）、筆記用具、洗面具、タオル、入浴用品、身の回り品等 ※ショートパンツ、ランニングシャツ、サンダル等では作業できません。 ※長靴、雨具は貸与します。 ※タオル、入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は、速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739-8528 東広島市鏡山 1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡：履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は、担当者のメールアドレス（担当；小池 kazkoike@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し、電子メールを定期的に確認してください。また、メールアドレスを変更した場合は、速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 <p>* 全ての内容は英語にて行います。感染症の拡大状況や天候等の理由により、大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります。</p>		
<p>14. 社会人受講</p>	<p>科目等履修生（単位付与）として受け入れ</p>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
	<p>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</p>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性 6名 女性 8名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	生物生産学部	B2	男
2	広島大学	生物生産学部	B2	男
3	広島大学	生物生産学部	B2	女
4	カセサート大学		B2	女
5	カセサート大学		B2	女
6	カセサート大学		B2	女
7	カセサート大学		B2	男
8	カセサート大学		B2	男
9	カセサート大学		B4	女
10	王立ブノンペン大学		B4	女
11	王立ブノンペン大学		B4	男
12	ボゴール農科大学		B4	女
13	タイグエン農林大学		B3	女
14	タイグエン農林大学		B3	男

(1) シラバス

《単位互換提供科目詳細 (シラバス)》

* 科目 No.	
----------	--

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学生物生産学部		開催方法	■対面 (練習船豊潮丸)	
				□オンライン (同時・録画・資料提示)	
				□その他 ()	
2. 正式科目名 副題		里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習		配当年次	1～4
				受入学年	1～4
学問分野	番号	33	名称	農学 (農学、水産学など)	
3. 担当教員名	吉田将之				
4. 単位数	1 単位	5. 開講学期	後期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2025 年 12 月 11 日 (木) ～2025 年 12 月 12 日 (金)				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	10 人	9. 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・授業計画	<p>広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は、令和4年度より第三期教育関係共同利用拠点に認定され、学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では、練習船豊潮丸の1泊2日の広島湾航海への乗船を通じて、森・川・海のつながりと恵みに関する学びを深めます。</p> <p>複合的な体験学習を通じて、里海広島湾における森・川・海のつながりの大切さを実感として理解してもらいます。</p> <p>実施内容 (航海予定)</p> <p>12/11(木)9:00 練習船基地 (呉) 集合, 10:00 乗船・出港, 漁船操業の視察と船内講義, 11:00 水質調査 (太田川河口付近), 昼食, 12:30 牡蠣養殖の学習, 15:30 宮島入港, 自然観察散策, 夕食, 釣り調査, レポート作成</p> <p>12/12(金)8:00 宮島港出港, 9:00 水質調査 (宮島沖), 牡蠣漁場視察, 11:00 釣り調査、昼食 13:00 船内講義, レポート発表, 船内清掃, 15:30 修了式 (呉基地), 解散</p>				
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点、発表とレポート 50 点で評価				
12. 別途負担費用	<p>約 3,000 円程度 (12 月 11 日昼食～12 日昼食まで毎食分, シーツ洗濯代など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。 				

<p>13. その他特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 感染症防止対策として、以下の3点は厳守していただきます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習開始直近1週間、毎日検温を行い体温が37.5℃を超えていないこと。 2. 1週間分の健康確認・行動記録表を作成し、演習に持参すること。 3. 演習当日の体温が37.5℃以下であること。 ● 集合時間（別途お知らせします）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約35分（快速），JR 呉駅より徒歩約15分 練習船基地 位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの 医療保険証，運動靴，船酔止薬，作業着（長袖，長ズボン，帽子），ノートPC（必須），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 ※ショートパンツ，ランニングシャツ，サンダル，スリッパ等では作業できません。 ※長靴，雨具は貸与します。 ※タオル，入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系総括支援室（学士課程担当） 〒739-8528 東広島市鏡山1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡 履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（yosidam@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，電子メールを定期的に確認してください。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 <p>*感染症の拡大状況等により，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります。</p>						
<p>14. 社会人受講</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">科目等履修生（単位付与）として受け入れ</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">可</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</td> <td style="text-align: center;">可</td> <td></td> </tr> </table>	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可		聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	
科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可						
聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可						

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性 1名 女性 0名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島修道大学	人間環境学部	B4	男

(3) 実習風景

2025年12月11日に「練習船豊潮丸で学ぶ広島湾SDGs」航海を実施しました。

呉湾の見学、説明訓練、船内講義を行い、牡蠣筏を見学しつつ早瀬瀬戸を抜けました。

大黒神島沖では採泥調査を行いました。採取した泥からは、幸運にも参加者が研究対象としているクモヒトデの一部が見つかり、大興奮でした。

今回の参加者は1名でしたが、その分密度の高い実習となったと思います。この参加者も大いに満足している様子でした（写真なし）。

(1) シラバス

2025年度後期 e-STARTプログラム コース7/e-START Program course

所属・職名 School, Job Title	大学院統合生命科学研究科・生物資源科学プログラム Graduate School of Integrated Sciences for Life
氏名 Name	若林香織 (准教授) Kaori Wakabayashi (Assoc. Prof.)
メールアドレス Email address	kaoriw@hiroshima-u.ac.jp

① コーステーマ/Theme of the course			
海洋観測をとおして考える海洋水産資源の持続的利用 Sustainable use of marine fishery resources: studies through the oceanographic observations			
② 教養教育科目/Liberal Arts Education Course			
<input checked="" type="checkbox"/> オンライン国際ゼミ A (1単位) /Online International Seminar A (1credit) <input type="checkbox"/> オンライン国際ゼミ B (2単位) /Online International Seminar B (2credit)			
③ コース開始日/Course Start Date			
<input type="checkbox"/> 第3ターム・第4ターム (2025年10月2日-2026年2月6日) /3rd Term・4th Term (October 2, 2025 – February 2, 2026) <input checked="" type="checkbox"/> 学年末休業期間 (2026年2月7日～3月31日) /Year-End Academic Break (February 7 – March 31, 2026)			
④ 共同実施先の大学名, 国・地域名 (2大学/国・地域以上ある場合は, 欄を追加してください) Partner university(ies) and country/region to jointly conduct the course – add fields if needed			
国・地域名 1 Country/region 1	ペルー・リマ Peru / Lima	大学名 1 Name of university 1	サンマルコス大学 National University of San Marcos
国・地域名 2 Country/region 2	台湾・基隆 Taiwan / Keelung	大学名 2 Name of university 2	臺灣海洋大学 National Taiwan Ocean University
国・地域名 3 Country/region 3	インドネシア・スラバヤ Indonesia / Surabaya	大学名 3 Name of university 3	アイルランガ大学 Airlangga University
国・地域名 4 Country/region 4	日本・静岡 Japan / Shizuoka	大学名 4 Name of university 4	静岡大学 Shizuoka University
国・地域名 5 Country/region 5	マレーシア・セルダン Malaysia / Serdang	大学名 5 Name of university 5	マレーシアプトラ大学 University Putra Malaysia

⑤ コースでの使用言語 /Language to be used in the course	英語 English
⑥ 使用予定のオンラインツール /Communication platform to be used in the course	Microsoft Teams
⑦ 対象学生等/Eligibility ※原則、最終セメスター学生は単位付与のタイミング上、「単位不要」での登録となる。 ※大学院生は学部の科目の単位付与可能 In principle, students in their final semester will be registered as “no credit required” due to the timing of credit approval. Graduate students may be granted credits for undergraduate courses.	<input type="checkbox"/> 学部生のみ/Undergraduate students only <input type="checkbox"/> 大学院生のみ/Graduate students only <input checked="" type="checkbox"/> 学部生・大学院生どちらも/Both undergraduate and graduate students <input checked="" type="checkbox"/> 教職員の見学可/ Faculty and staff may observe
⑧ 曜日・時間/Day and Time 現時点で分かる情報をご提供ください Please provide the details currently available	2026年3月2日～3月24日 From 2 to 24 March 2026
⑨ 募集人数/Capacity	最小開講人数：4名/Minimum number of participants：4 最大募集人数：10名/Maximum number of participants：10
⑩ 募集終了日/ Application due date	2026年 1月 16日 2026 January 16
⑪ 持っておくと望ましい背景知識 /Recommended background knowledge	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物学や水産学に対する興味 Interest in Marine Biology, Fishery Biology, and Aquaculture Sciences ・生物学に関する基礎知識 Basic knowledge of Biology ・持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」の内容 Targets of the Sustainable Development Goal No. 14 “Life Below Water”
⑫ コース概要/Course Outline	<p>水産資源への依存度が高い国々の学生が集い、海洋水産資源に関する基礎的な知識を学び、本学が所有する練習船豊潮丸を使って漁業や海洋観測の実際を現場またはオンラインで体験する。講義と現場体験から学んだことをグループワークによって議論しながら整理する。さらに、水産資源の持続利用に関するいくつかの課題について、グループワークによって探求する。</p> <p>Students from five different countries that highly rely on the exploitation of fishery resources will participate in this course to learn the basic knowledge of marine fishery resources and to experience the fishery activities in a practice on the training vessel TOYOSHIO MARU onsite/online. Students</p>

will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other participants. They will then discuss issues related to the sustainable use of marine fishery resources.

⑬ コース内容詳細案（必要に応じ補足資料を添付してください）

/Detailed plan of the course (please attach supplementary documents if necessary)

(1) 講義/ Lecture Plan

時期/Period : Around 3月/month 2日/day 頃 ~ 3月/month 12日/day 頃

内容/Details :

① コーステーマに関連する数回の講義（各15–30分間）をオンデマンド形式で実施する。講義は参加大学に所属する教員による。（2026年3月2日～12日）

Several lectures (15–30 min for each session) related to the course theme will be given on demand. Lecturers will be the teaching staff belonging to each participating university. (2 to 12 March 2026)

② 洋上演習を通じて漁業や海洋生物に関する知識を深める。広島大学の学生は広島大学附属練習船「豊潮丸」に乗船し、現場で演習に参加する（演習経費2,062円を徴収します；呉市の豊潮丸基地に現地集合・解散）。海外大学の学生はオンラインで演習に参加できるよう、Microsoft Teamsを利用してリアルタイムで配信する。演習講師は沖縄科学技術大学院大学より招聘する。また、豊潮丸の過去の演習を収録したVR動画も活用する。詳細は「その他」を参照。（2026年3月9日～11日）

This marine practice will provide basic knowledge of fishery activities and marine organisms. Students from Hiroshima University will have actual experience of using fishing gears and other oceanographic observation tools on the training vessel TOYOSHIO MARU (a cruise fee of 2,062 yen will be collected). The marine practice will be broadcast for the students from overseas using Microsoft Teams. Instructor of this practice will be invited from the Okinawa Institute of Science and Technology (OIST). VR 360 videos of the previous practices conducted on the training vessel will also be used. See “Others” for more details of the cruise. (9 to 11 March 2026)

時間数合計/Total hours : 10 時間/hours

(2) グループワーク/Group Work Plan

時期/Period : Around 3月/month 13日/day 頃 ~ 3月/month 23日/day 頃

内容/Details :

5つの大学からの参加者が混合するように複数のグループを作り（各グループ6–8名程度）、講義や演習をとおして学習したことをグループ内で共有する。コーステーマに関連する課題を一つ掲げ、Microsoft Teamsを利用してグループ内で議論し、発表を準備する。

Participants from five universities will be mixed and distributed into several groups (ca. 6-8 students in a group). They will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other group members. Each group will select one subject related to the course theme and discuss the subject to prepare a presentation via Microsoft Teams.

時間数合計/Total hours : 7 時間/hours

(3) グループ発表/Group Presentation Plan

時期/Period : Around 3月/month 19日/day 頃 ~ 3月/month 24日/day 頃

内容/Details :

各グループが、掲げた課題について整理した問題点や解決策などを発表する。発表は20分程度で準備し、Microsoft Teamsなどを通じてオンラインで実施する。

Each group will give a 20 min talk containing the topic orientation, problems, and ideas of solution. The presentations will be done online using Microsoft Teams.

時間数合計/Total hours : 3 時間/hours

⑭ その他/Others

・広島大学の学生は1泊2日の瀬戸内海での洋上演習に参加します。演習経費は一人2,062円（食費1,600円、シーツクリーニング代462円）です。また、豊潮丸基地までの往復交通費は各自負担となります。現時点での演習日程は以下の通りです。

Students from Hiroshima University will join a 2-day cruise in the Seto Inland Sea. Cruise fee is 2,062 yen per person. Travel costs to and from the TOYOSHIO MARU Base will be borne by each student. Cruise plan at this moment is as follows:

1日目 Day 1 (9 or 10 March 2026)

12:30 呉市の練習船豊潮丸基地に集合 Gather at the base of training vessel in Kure

13:00 出港 Leave the Port

14:00 広島大学学生間の交流 Introduction

16:00 夕食 Dinner

17:00 演習準備・試験調査 Preparation and preliminary practice

2日目 Day 2 (10 or 11 March 2026)

7:00 朝食 Breakfast

8:00 演習① Practice 1

9:00 船内見学 Tour in the vessel

11:00 昼食 Lunch

12:00 演習② Practice 2

15:00 帰港 Return to the Port

解散 End

・他大学の学生は、演習①または演習②にオンラインで参加する。Students from other universities will join either Practice 1 or Practice 2 through Microsoft Teams.

(2) 受講者・参加大学

乗船者 : 受講者名簿(男性 6名 女性 2名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	統合生命科学研究科	D2	男
2	広島大学	統合生命科学研究科	D2	男
3	広島大学	統合生命科学研究科	D2	女
4	広島大学	統合生命科学研究科	M2	女
5	広島大学	統合生命科学研究科	M1	男
6	広島大学	統合生命科学研究科	M1	男
7	静岡大学		B2	男
8	静岡大学		B2	男

オンライン受講者数

No	大学名	国	人数
1	アイルランガ大学	インドネシア	9
2	国立台湾海洋大学	台湾	5
3	国立サン・マルコス大学	ペルー	8
4	静岡大学	日本	2

(3) 実習風景

2026年3月10～11日に、広島大学の国際協働プログラム（e-STARTプログラム）と連携して実施する virtual 航海を実施しました。この航海は、e-STARTプログラムに参加している海外大学の学生に豊潮丸での洋上実習をオンラインを介して配信し、リアルタイムで講師とやり取りできるユニークな取り組みです。1日目は現地で航海に参加した広島大学・静岡大学の学生に実習を提供し、2日目は彼らが講師役となって海外大学の学生にプレゼンしました。また、沖縄科学技術大学院大学から本学部の卒業生でもある Gustavo Sanchez 博士を招聘し、海洋中の環境 DNA の採集方法についても講義いただきました。

乗船者の12名は8か国の出身者から構成されました。1泊2日の短い航海でしたが、夜間の自由時間などを利用して文化的な交流も促進され、実りの多い実習となりました。

On March 10–11, 2026, we held a virtual cruise as a part of International Collaborative Program (e-START Program) at Hiroshima University. This initiative is a unique effort in which onboard training aboard the training vessel Toyoshio-maru is streamed online to students from partner universities overseas who are participating in the e-START Program, allowing them to interact with instructors in real time. On the first day, practical onboard training was provided to students from Hiroshima University and Shizuoka University who were physically participating in the cruise. On the second day, these students took on the role of instructors and delivered presentations to students from overseas universities. In addition, Dr. Gustavo Sanchez of the Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST)—an alumnus of our faculty—was invited to give a lecture on methods for collecting environmental DNA (eDNA) from oceanic environments.

The twelve participants onboard represented eight different countries. Although the cruise lasted only two days, participants were able to engage in meaningful cultural exchange during free time, including the evening hours. Overall, the cruise proved to be a highly productive and enriching practical training experience.

第1章 演習の取組状況
5. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム



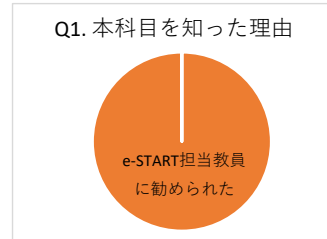
(4) 受講生によるアンケート評価

「e-STARTプログラム コース9」アンケート

※「Virtual乗船プログラム」を含むコース全体のアンケートです。

Q1. あなたはどのようにしてこの科目があることを知りましたか？

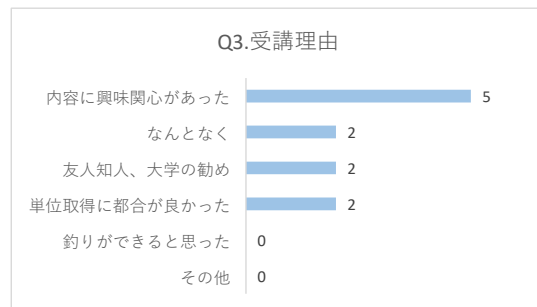
もみじの掲示で知った	0
e-START担当教員に勧められた	6
友人知人から知らされた	0
その他	0



Q2. 質問1で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。
回答なし

Q3. なぜこの科目を受講しようと思いましたか？（複数解答可）

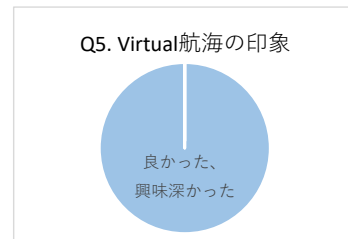
内容に興味関心があった	5
なんとなく受けてみようと思った	2
友人知人、大学の勧めがあった	2
単位習得に都合が良かった	2
釣りができると思った	0
その他	0



Q4. 質問1で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。
回答なし

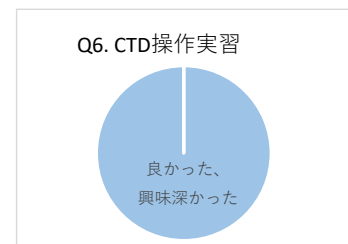
Q5. Virtual航海の全般の印象はいかがでしたか？

良かった、興味深かった	6
まあまあ良かった	0
あまり面白くなかった	0
まったく面白くなかった	0



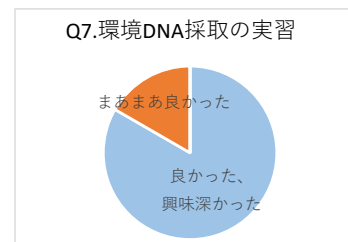
Q6. CTD操作実習はいかがでしたか？

良かった、興味深かった	6
まあまあ良かった	0
あまり面白くなかった	0
まったく面白くなかった	0



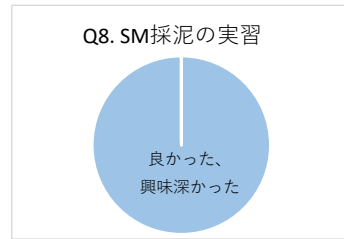
Q7. 環境DNA採取方法の実習はいかがでしたか？

良かった、興味深かった	5
まあまあ良かった	1
あまり面白くなかった	0
まったく面白くなかった	0



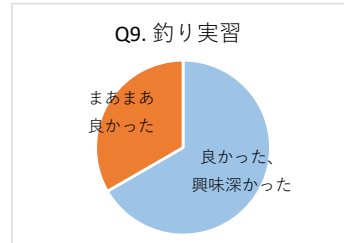
Q8. SM採泥の実習はいかがでしたか？

良かった、興味深かった	6
まあまあ良かった	0
あまり面白くなかった	0
まったく面白くなかった	0



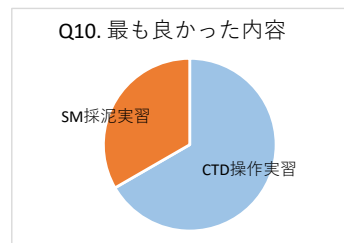
Q9. 釣り実習はいかがでしたか？

良かった、興味深かった	4
まあまあ良かった	2
あまり面白くなかった	0
まったく面白くなかった	0



Q10. 最も良かったと思う内容を一つ選択してください。

CTD操作実習	4
環境DNA採取実習	0
SM採泥実習	2
釣り実習	0



Q11. 質問10.の理由を書いてください。

【CTD操作実習】

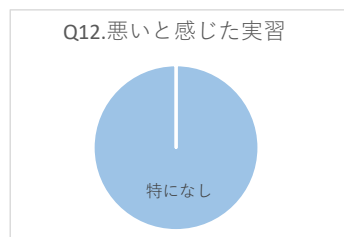
- 実際に現場でのCTD操作の体験という自分の今の専攻からしたら貴重な経験ができて、生物の研究等の作業に実感が湧いたから。
- 良い経験になりました。グループワークについて学ぶことができ、楽しかったです。
- すべての活動が興味深く教育的だと感じましたが、なかでもCTD操作実習の説明が最も丁寧でした。
学生全員がCTD装置についてよく理解できたと思います。
- 実際に説明、指示を受けながら自分がコンピュータを操作することができたから。

【SM採泥実習】

- 興味深かったです。
- どの実習も好きでした。一番好きなものを2つ選ぶとしたら、CTD操作実習とSM採泥実習です。

Q12. 最も悪く感じたのはどれですか？

CTD操作実習	0
環境DNA採取実習	0
SM採泥実習	0
釣り実習	0
特になし	6

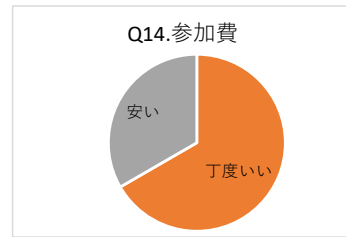


Q13. 質問14.の理由を書いてください。

- どの活動も非常に魅力的でした。
- すべてにおいて未知の体験であったから。
- すべてが良く、不適切な点や不必要な点は何も見当たりませんでした。
- すべての実習が楽しく、勉強になりました。唯一の欠点は、魚がまったく釣れなかったことです。
機材のせいではなく、単に海で魚を釣る経験が不足していたからです。
- どれも貴重な体験でした。

Q14. 参加費はいかがでしたか？

高い	0
丁度いい	4
安い	2
よくわからない	0



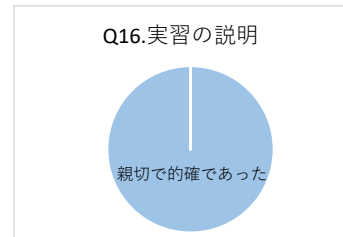
Q15.質問14で『高い』『安い』と回答された方はいくら位だったら良いか書いてください。

○新幹線などの移動費は17,000円程で高かったが、乗船料などは安いと感じた。

Q16. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【実習についての説明】

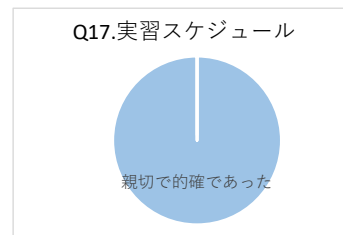
親切で的確であった	6
まあまあ良かった	0
あまり良くなかった、有効でなかった	0
全くよくなかった	0



Q17. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【実習のスケジュール組み】

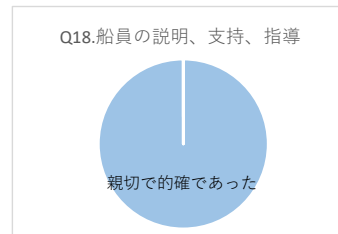
親切で的確であった	6
まあまあ良かった	0
あまり良くなかった、有効でなかった	0
全くよくなかった	0



Q18. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【豊潮丸の船員の説明、支持、指導】

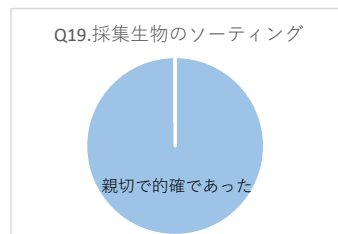
親切で的確であった	6
まあまあ良かった	0
あまり良くなかった、有効でなかった	0
全くよくなかった	0



Q19. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【採集生物のソーティング作業】

親切で的確であった	6
まあまあ良かった	0
あまり良くなかった、有効でなかった	0
全くよくなかった	0

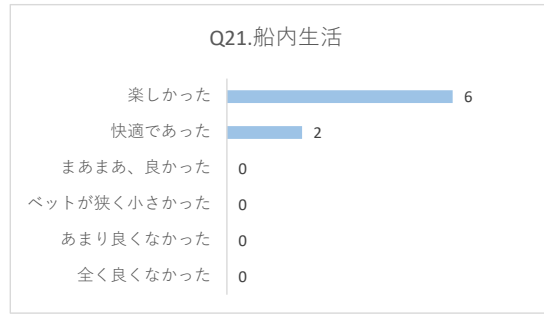


Q20.質問16.~19.においてコメントがあれば書いてください。

回答なし

Q21.船内生活は快適でしたか？（複数回答可）

普段経験できないことで、楽しかった	6
快適であった	2
まあまあ、良かった	0
ベットが狭く小さかった	0
あまり良くなかった	0
全く良くなかった	0

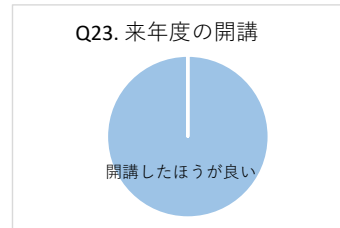


Q22.質問21.においてコメントがあれば書いてください。

回答なし

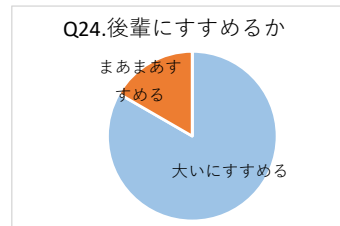
Q23.こういった科目を来年度以降も開講したほうが良いと思いますか？

そう思う	6
そう思わない	0
どちらでも良い	0
内容を大幅に変更したほうが良い	0



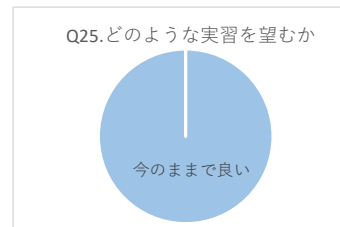
Q24.後輩には、今回の科目の受講をすすめますか？

大いにすすめる	5
まあまあすすめる	1
特にすすめない	0
すすめない	0



Q25.あなたがまた乗船するとして、どのような実習内容を望みますか。

今のままで良い	6
変えた方が良い	0



Q26.質問25.で『変えた方が良い』と回答した方は具体的に理由を書いてください。

○新しい経験になるなら何でも。

Q27.この演習について自由にコメントをお願いします。改善点などもあれば書いてください。

- このプログラムに参加させていただき、ありがとうございました。海洋学のツールや仕組みに触れ、体験できる機会をいただき、大変光栄に思います。このプログラムを通して、新たなスキルを習得し、多くのことを学ぶことができました。来年度もこのプログラムが継続されることを願っています。
- 船上での宿泊や、基本的に会話が英語で、将来体験するかわからないCTD操作実習やSM採泥実習といったものに触れる貴重な機会を経験することができました。下船から5日ほど経過したが船の揺れ、いわゆる陸酔いが残っていて慣れない。
- このコースに参加できて嬉しいです。全体的にとっても教育的で楽しいコースでした。
- 全体的に見て、今回の実習は楽しく、かつ教育的だったと思います。次回は、広島湾からもっと遠く、例えば四国に近い瀬戸内海などで水質や海底のサンプルを採取すれば、実習からより多様なデータが得られるかもしれません。
- とても貴重な体験ができました。ありがとうございました。

6. 受講生の負担金額

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

・受講生 1名当たり 4,062 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	3泊4日 (円)
食事代 (朝)	400	3 食	1,200
食事代 (昼)	600	2 食	1,200
食事代 (夕)	600	2 食	1,200
クリーニング代	462	1 回	462
計			4,062

2. 里海フィールド演習

・受講生 1名当たり 0 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1日 (円)
食事代 (朝)	400	0 食	0
食事代 (昼)	600	0 食	0
食事代 (夕)	600	0 食	0
クリーニング代	462	0 回	0
計			0

3. 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習

・受講生 1名当たり 600 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1日 (円)
食事代 (朝)	400	0 食	0
食事代 (昼)	600	1 食	600
食事代 (夕)	600	0 食	0
クリーニング代	462	0 回	0
計			600

4. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

・受講生 1名当たり 0 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1日 (円)
食事代 (朝)	400	0 食	0
食事代 (昼)	600	0 食	0
食事代 (夕)	600	0 食	0
クリーニング代	462	0 回	0
計			0

5. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

・受講生 1名当たり 912 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1泊2日 (円)
食事代 (朝)	400	食	0
食事代 (昼)	600	食	0
食事代 (夕)	600	食	0
お米のみ	150	3 食	450
クリーニング代	462	1 回	462
計			912

7. 成績評価

(1) 成績評価方法

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演
受講態度50点，発表・レポート50点で評価する。
2. 里海フィールド演習
受講態度60点，発表20点，レポート20点で評価する。
3. 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習
受講態度50点，計2回の船内プレゼンテーション50点で評価する。
4. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習
受講態度50点，発表・レポート50点で評価する。
5. With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム
洋上実習・グループディスカッションでの受講態度およびプレゼンテーションで評価する。

(2) 成績評価基準

- ・秀 (S)，優 (A)，良 (B)，可 (C) 及び不可 (D) の5段階評価とする。
- ・5段階評価の基準は，100点満点で採点し，90点以上を「秀 (S)」，80～89点を「優 (A)」，70～79点を「良 (B)」，60～69点を「可 (C)」とし，60点未満は「不可 (D)」とする。

第2章

共同利用の実績

他大学等共同利用状況

授業科目名等	実施期間	概要
海洋生命科学演習 (教育1)	4月8日～16日：削減	浅海熱水域生物の幼生分散機構の解明調査等 ・北里大学 単独
海洋観測実習 (教育2)	6月1日～7日：中止	一般海洋観測 ・高知大学 単独
フィールド生態環境実習 (教育4)	6月19日～21日	一般海洋観測 ・福山大学生命工学部 教授2名、学部生28名
洋上里海総合演習 (教育5)	6月27日～30日	体験航海・一般海洋観測 ・福山大学生命工学部 学部生12名 ・広島文教大学教育学部 学部生1名
海洋生物学特別実習-2 (公開A2)	7月14日～18日：削減	海産魚類に寄生する甲殻類の採集
海洋生物学特別実習-3 (公開A3)	7月21日～25日	有用生理活性物質開発の為の海洋生物採集 ・早稲田大学先進理工学部 教授1名、講師1名、助手1名、研究員1名、 学部生4名、院生4名
海洋調査セミナー (社会5)	8月8日	子供・海のふしぎ発見隊(江田島青少年交流の家) ・安田女子大学 学部生1名
里海フィールド演習 (教育11)	8月25日～26日	体験航海・一般海洋観測 ・愛媛大学農学部 学部生1名 ・香川大学農学部 学部生2名 ・鳥取大学農学部 学部生2名 ・山口大学農学部 学部生3名 ・岡山大学農学部 学部生6名 ・島根大学生物資源科学部 学部生2名
調査実習航海 (公開B4)	9月8日～12日	沿岸域の難分解性有機物の空間分布等の調査 ・大阪公立大学大学院工学研究科 准教授1名、院生1名 ・大阪公立大学工学部学部 学部生1名 ・愛媛大学沿岸環境科学研究センター 准教授1名、院生5名
海洋生物学特別実習-5 (公開A5)	9月18日～26日：中止	海洋の浮遊粒子によるCO ₂ 吸収の調査
海洋生物学特別実習-6 (公開A6)	9月29日～10月6日：中止	口永良部島における魚類相調査
海洋実習 (教育13)	10月8日～13日	一般海洋観測 ・北里大学 講師1名、学部生12名、院生1名
Blue Growth洋上演習 (教育14)	10月15日～17日：中止	Blue Growthを目指したオーダーメイド洋上演習
海洋生物学特別実習-7 (公開A7)	10月23日～29日	南西諸島における水産有用甲殻類の調査 ・北里大学海洋生命科学部 講師1名、学部生6名 ・福山大学生命工学部 講師1名、学部生2名 ・檀国大学 院生2名
飢餓・貧困解決洋上演習 (教育16)	11月10日	飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習 ・カセサート大学 学部生6名 ・王立ブノンペン大学 学部生2名 ・ポゴール農科大学 学部生1名 ・タイグエン農林大学 学部生2名
練習船で学ぶ広島湾SDGs (教育17)	12月11日	里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習 ・広島修道大学 学部生1名
海洋生物学特別実習-8 (公開A8)	1月19日～23日	SM採泥器及びドレッジによる底泥調査 ・神戸大学理学部 特命助教1名 ・鹿児島大学水産学部 学部生1名 ・香川大学農学部 学部生1名 ・金沢大学自然科学研究科 院生1名 ・東京大学理学系研究科 院生1名 ・京都大学理学研究科 院生1名 ・東京海洋大学海洋科学技術研究科 院生2名 ・鹿児島大学理工学研究科 院生1名 ・琉球大学理工学研究科 院生1名 ・神奈川大学総合理学研究所 研究員1名
Virtual プログラム (教育22)	3月10日～11日	With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム ・沖縄科学技術大学院大学 研究員1名 ・静岡大学 学部生2名 (オンライン参加) ・静岡大学 学部生2名 ・マレーシアプトラ大学 教員1名 ・アイルランガ大学 教員1名、学生9名 ・国立台湾海洋大学 学生5名 ・国立サンマルコス大学 学生8名

*共同利用は、原則として単位認定を伴う教育課程上の乗船実習を練習船保有大学が利用大学に提供することをいう。

第2章 共同利用の実績

区 分	令和7年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内	8	307	649
国立大学	20	69	131
公立大学	1	2	8
私立大学	6	74	270
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	22	34	51
外国の研究機関	0	0	0
その他	10	407	409
(うち大学院生)		(97)	(333)
計	67	893	1,518

* 大学の利用人数は学生の利用人数のみとした（教職員等の利用は含まない）。

令和7年度(2025度) 練習船共同利用拠点化における乗船実績

練習船名 豊潮丸 (256.0トン)	整理 記号	航海期間	大学(含:進ずるもの)				大学外(その他)				余 席 数	延 べ 余 席 数	航 海 区 分	備考
			広島大学内		延べ人数		研究機関・企業等		延べ人数					
			教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 生 研 般 他 計	教 生 研 般 他 計						
2501	4月23日～4月23日 (1日)	統合生命科学研究科 1 7 1 0 8 17	1 7 1 0 8 17							3	3	R C	航海区分 T: 教育実習航海 R: 調査実習航海 S: 社会貢献航海 乗船者区分 S: 社会貢献航海 教: 教員・教諭 院: 大学院生 学: 学部学生・研究生 職: 事務員・技官 研: 研究員・調査員 般: 社会人 その他	
2547	5月18日～5月18日 (1日)	統合生命科学研究科 0 0 0 0 1 1	0 0 0 0 1 1			見学者	0 0 0 220 0 220	0 0 0 220 0 220		0	0	S C		
2506	6月14日～6月14日 (1日)	統合生命科学研究科 1 0 18 0 0 19	1 0 18 0 0 19							1	1	T C		
2507	6月19日～6月21日 (3日)			福山大学生命工:	2 0 28 0 0 30	4 0 28 0 0 32				0	0	T I		
2508	6月27日～6月30日 (4日)	統合生命科学研究科 0 0 1 0 0 1	0 0 4 0 0 4	福山大学生命工学部 0 0 12 0 0 12 広島文教大学教育学部 0 0 1 0 0 1 13	0 0 48 0 0 48 0 0 4 0 0 4 52				6	28	T C			
2509	7月5日～7月5日 (1日)	統合生命科学研究科 1 0 17 0 0 18	1 0 17 0 0 18							2	2	T C		
2510	7月7日～7月11日 (5日)	統合生命科学研究科 2 3 4 1 0 10	10 15 20 5 0 50							10	50	R C		
2504	7月16日～7月17日 (2日)	統合生命科学研究科 1 9 3 0 0 13	2 18 6 0 0 26							7	14	T C		
2512	7月21日～7月25日 (5日)	統合生命科学研究科 1 3 1 0 0 5	5 15 5 0 0 25	早稲田大学先進理工学部 3 4 4 1 0 12	15 20 20 5 0 60				3	15	T C			
2513	7月26日～7月27日 (2日)	統合生命科学研究科 1 2 0 0 0 3	2 4 0 0 0 6			岩国市ミクロ生物館 0 0 0 0 1 1 山口県立徳山高等学校 1 0 0 0 0 1 周南市立岐山小学校 1 0 0 0 0 1 岩国市教育委員会科学センター ポンテイル 0 0 0 1 0 1 体験航海参加者 0 0 0 40 0 40 44	0 0 0 0 2 2 2 0 0 0 0 2 2 0 0 0 0 2 0 0 0 1 0 1 0 0 0 40 0 40 47		0	0	S I			
2514	8月1日～8月1日 (1日)	統合生命科学研究科 1 2 0 0 0 3	1 2 0 0 0 3			広島大学附属高等学校 1 0 0 19 0 20	1 0 0 19 0 20			0	0	S I		
2515	8月2日～8月3日 (2日)	統合生命科学研究科 2 3 0 0 0 5 総合科学部 0 0 26 0 0 26	4 6 0 0 0 10 0 0 26 0 0 26							0	0	T C		
2516	8月4日～8月4日 (1日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1	1 0 0 0 0 1			広島国泰寺高校 3 0 0 20 0 23	3 0 0 20 0 23			0	0	S I		
2517	8月5日～8月5日 (1日)					安田女子中学高等学校 2 0 0 20 0 22	2 0 0 20 0 22			0	0	S I		
2518	8月6日～8月6日 (1日)	経済学部 0 0 7 0 0 7 工学部 0 0 5 0 0 5 総合科学部 0 0 3 0 0 3 法学部 0 0 4 0 0 4 文学部 0 0 1 0 0 1 20	0 0 7 0 0 7 0 0 5 0 0 5 0 0 3 0 0 3 0 0 4 0 0 4 0 0 1 0 0 1 20							0	0	T C		
2519	8月7日～8月7日 (1日)	経済学部 0 0 4 0 0 4 工学部 0 0 2 0 0 2 総合科学部 0 0 8 0 0 8 法学部 0 0 3 0 0 3 17	0 0 4 0 0 4 0 0 2 0 0 2 0 0 8 0 0 8 0 0 3 0 0 3 17							3	3	T C		

令和7年度(2025度) 練習船共同利用拠点化における乗船実績

練習船名 豊潮丸 (256.0トン)	整理 記号	航海期間	大学(含:進ずるもの)						大学外(その他)						余 席 数	延 べ 余 席 数	航 海 区 分	備考
			広島大学内		延べ人数		広島大学外		研究機関・企業等		延べ人数		大学外(その他)					
			教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計				
2520	8月8日 ~ 8月8日 (1日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1 教育学部 0 0 3 0 0 3 4	1 0 0 0 0 1 0 0 3 0 0 3 4	安田女子大学教育学部 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1	0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1	江田島青少年交流の家 0 0 0 3 0 3 0 0 0 30 0 30 33	0 0 0 3 0 3 0 0 0 30 0 30 33	0	0			0	0	S I	航海区分 T: 教育実習航海 R: 調査実習航海 S: 社会貢献航海 D: 入渠補修工事 K: 海上試運転			
2521	8月18日 ~ 8月22日 (5日)	統合生命科学研究科 0 0 16 0 0 16	0 0 80 0 0 80					4	20					T C				
2522	8月25日 ~ 8月26日 (2日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1	1 0 0 0 0 1	愛媛大学農学部 0 0 1 0 0 1 香川大学農学部 0 0 2 0 0 2 鳥取大学農学部 0 0 2 0 0 2 山口大学農学部 0 0 3 0 0 3 岡山大学農学部 0 0 6 0 0 6 島根大学生物資源科学部 0 0 2 0 0 2 16	0 0 1 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 2 0 0 2 0 0 3 0 0 3 0 0 6 0 0 6 0 0 2 0 0 2 16			3	3			T C	その他の共同利用 CO: 便乗					
2523	8月27日 ~ 8月29日 (3日)	統合生命科学研究科 1 2 3 0 0 6	3 6 9 0 0 18					14	42					T C	職: 事務員・技官 研: 研究員・調査員 般: 社会人 他: 報道・マスコミ その他			
2524	9月1日 ~ 9月5日 (5日)	統合生命科学研究科 0 16 0 0 0 16	0 80 0 0 0 80					4	20					T C				
2525	9月8日 ~ 9月12日 (5日)	統合生命科学研究科 1 3 2 0 0 6 広島大学環境安全センター 1 0 0 0 0 1 7	5 15 10 0 0 30 3 0 0 0 0 3 33	大阪公立大学大学院工学研究科 1 1 0 0 0 2 大阪公立大学工学部 0 0 1 0 0 1 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 1 0 0 1 0 2 愛媛大学大学院理工学研究科 0 5 0 0 0 5 10	5 5 0 0 0 10 0 0 3 0 0 3 5 0 0 5 0 10 0 25 0 0 0 25 48			3	19			R C						
2527	9月30日 ~ 10月1日 (2日)	統合生命科学研究科 1 0 6 0 0 7	2 0 12 0 0 14					13	26					T C	研: 研究員・調査員 般: 社会人 他: 報道・マスコミ			
2528	10月8日 ~ 10月13日 (6日)			北里大学海洋生命科学部 1 1 12 0 0 14	6 6 72 0 0 84			6	36					T C				
2529	10月17日 ~ 10月17日 (1日)	広島大学 13 0 0 0 2 15	13 0 0 0 2 15			呉市議会議員 中国経済連合会 有川海事特許事務所 くれ産業振興センター 國富株式会社 五洋建設株式会社 株式会社商船三井 中電技術コンサルタント 広島メタル&マンナリー 深田サルベージ建設 ヤマハ発動機 淀川製鋼所呉工場 中国新聞呉支所 読売新聞社広島総局 読売新聞社呉支局 テレビ新広島TSS呉支局					0 0 0 24 0 24 0 0 0 24 0 24	0	0	S I				
2531	10月20日 ~ 10月21日 (2日)	統合生命科学研究科 1 3 0 0 3 7	2 4 0 0 3 9			東広島市立木谷小学校 東広島市役所農林水産課 東広島市議会	3 20 0 3 0 26 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 28	3 20 0 3 0 26 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 28	0	0			S I	航海区分 T: 教育実習航海 R: 調査実習航海 S: 社会貢献航海				
2532	10月23日 ~ 10月29日 (7日)	統合生命科学研究科 1 3 1 0 0 5 人間科学研究科 0 0 0 1 0 1 6	7 21 7 0 0 35 0 0 0 7 0 7 42	北里大学海洋生命科学部 1 0 6 0 0 7 福山大学生命工学部 1 0 2 0 0 3 檀国大学(韓国) 0 2 0 0 0 2 12	7 0 42 0 0 49 7 0 14 0 0 21 0 14 0 0 0 14 84	なぎさ水族館 加茂水族館	0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 2	0 0 0 7 0 7 0 0 0 7 0 7 14	0	0			T C					

Calendar grid showing monthly activities from April to March. Columns include dates, activity names (e.g., 教育1, 教育2), and monthly totals for sea days, mooring days, and total days. Includes a legend for symbols like Δ (weekday), ○ (weekend), and ◎ (holiday).

* 定員20名(教員&学生)+船員12名。 臨時定員50名(平水区域・航行予定時間6時間未満)+船員12名。

Main activity log table with columns: 整理番号, 航海区分, 授業科目, 航海目的, 航海海域, 代表者, 日数, 乗船者数, 共同利用, 航海区分, 授業科目(年次), 航海目的, 航海海域, 代表者, 日数, 乗船者数, 共同利用. Includes sub-totals for 教育実習航海, 社会貢献航海, 乗船者数, and 合計.

教育関係共同利用拠点に関する留意点: 共同利用は、原則として単位認定を伴う教育課程上の乗船実習を保有大学が利用大学に提供することをいう。教育には卒業研究や修士・博士論文研究指導を含む。 * 単独航海とは他大学の学生のみが航海することをいう。混乗航海「教育5.11.16.17.22特定&公開実習A(課題提供)、公開実習B(課題募集)」とは保有大学の学生と一緒に他大学の学生が航海することをいう。その他の共同利用は便乗航海とする。

第3章

共同利用の実施に係る 経費

令和7年度 特別経費(教育関係共同利用実施分)

費 目	金額(千円)
コーディネーター担当人件費	367
実習生送迎バス借上げ費	128
広報関係費	0
共同利用運営協議会開催費 (出席委員の旅費含む)	166
重油料(一部)	615
観測機器整備費	0
実習設備費	3,512
実習消耗品費	14
計	4,802

第4章

共同利用に係る 検討会議の状況

令和7年度 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会議事要録

日時 令和8年3月6日(金) 14:00～15:16
場所 広島大学生物生産学部 会議室
審議者 若林(共同利用運営協議会議長/豊潮丸運営委員会委員長・准教授), 中口(副議長/船長・准教授), 小池(教授), 足立(高知大学農林海洋科学部・教授), 北口(福山大学生命工学部・教授), 広瀬(北里大学海洋生命科学部・講師), 立川(株式会社鶴見精機営業部・主査)
陪席者 坂井(豊潮丸運営委員会委員・教授), 和田(豊潮丸運営委員会委員・教授), 浅岡(豊潮丸運営委員会委員・准教授), 平山(豊潮丸運営委員会委員・講師), 加藤(豊潮丸一等航海士), 花岡(支援室・室長), 大下(支援室・主査), 神農(支援室)

※敬称略

開催に先立ち、若林議長から各委員の紹介があった。

協議・報告事項等

1. 共同利用航海について

(1) 令和7年度 of 取組報告

- ① 北里大学「海洋生命科学実習」
若林議長から、令和7年度の航海からは1大学につき共同利用航海は1航海とするため、海洋生命科学実習は削減となった旨、説明があった。
- ② 高知大学「海洋観測実習」
中口船長から、乗組員2名が退職したため、安全最小定員を満たすことができず航海を中止した旨、説明があった。
足立委員から、中止後の実習内容の補足説明があった。
- ③ 福山大学「フィールド生態環境実習」
北口委員から、別紙1に基づき、報告があった。
- ④ 広島大学「洋上里海総合演習」
中口船長から、別紙2に基づき、報告があった。
- ⑤ 広島大学「里海フィールド演習」
中口船長から、別紙3に基づき、報告があった。
- ⑥ 北里大学「海洋実習」
広瀬委員から、別紙4に基づき、荒天のため計画変更し、釜木湾と宿毛湾で深海生物の採取実習を実施した旨、説明があった。
- ⑦ 広島大学「Blue Growth 洋上演習」
小池委員から、受講生不足により中止となった旨、説明があった。
- ⑧ 広島大学「飢餓・貧困解決洋上演習」
小池委員から、別紙5に基づき、報告があった。
- ⑨ 広島大学「練習船で学ぶ広島湾 SDGs」
中口船長から、別紙6に基づき、報告があった。
- ⑩ 広島大学「Virtual プログラム」
若林議長から、別紙7に基づき、報告があった。

(2) 令和8年度 of 取組予定

- ① 高知大学「海洋観測実習」
足立委員から、令和8年度は例年通り2班に分けて海洋観測を行う旨、報告があった。

- ② 福山大学「フィールド生態環境実習」
北口委員から、令和8年度の航海も同様の予定である旨、報告があった。
- ③ 広島大学「洋上里海総合演習」
中口船長から、別紙8に基づき、令和8年度の航海も同様の予定である旨、報告があった。
- ④ 広島大学「練習船で学ぶ広島湾 SDGs」
中口船長から、別紙9に基づき、令和8年度の航海も同様の予定であるが、開催時期を12月から8月中旬に変更した旨、報告があった。
- ⑤ 広島大学「里海フィールド演習」
中口船長から、別紙10に基づき、令和8年度は大潮の日程に合わせて3日間の実習を計画している旨、報告があった。
- ⑥ 北里大学「海洋実習」
広瀬委員から、令和8年度から担当教員が交代し、プランクトン観察を含む内容で実施予定である旨、報告があった。
- ⑦ 広島大学「飢餓・貧困解決洋上演習」
小池委員から、別紙11に基づき、令和8年度の航海も同様の予定である旨、報告があった。
- ⑧ 広島大学「Virtualプログラム」
若林議長から、令和8年度の航海も同様の予定である旨、報告があった。

- ・中口船長から、香川大学はカリキュラム変更により実習を実施しなくなったが、調査航海には引き続き参加している旨、説明があった。

2. 豊潮丸運航計画等（共同利用実績等を含む）について

(1) 令和7年度実績

中口船長から、別紙12に基づき、説明があった。

- ・令和7年度は乗組員退職により航海日数が109日に減少したが、乗船人数は962人と目標である700人を超えた。船が運航できない期間もイベントでの一般公開等を実施した。
- ・運航再開は6月1日からとなった。

(2) 令和8年度計画（案）

中口船長および若林議長から、別紙13に基づき、説明があった。

- ・航海と船の整備の両立のため、運航計画表に航海以外の業務を行う日程をあらかじめ記載し日程を組むこととし、改善を図った。

3. 教育関係共同利用拠点経費について

(1) 令和6年度決算報告

特別経費と運航費の概要

中口船長から、別紙14および別紙15に基づき、説明があった。

- ・拠点費約500万円のうち300万円を運航費に支出し、残りは人件費、バス借り上げ費、観測機器整備費、消耗品等に充てられた。運航費は約4,300万円で、燃料費や設備修繕費が大きな割合を占めた。

(2) 令和7年度の執行状況

中口船長から、別紙16および別紙17に基づき、説明があった。

- ・令和7年度は拠点費が約480万円に減額され、船内LANサーバーの更新費350万円

が大きな支出となった。

- ・人件費やバス借り上げ費も計上され、特別経費の振替も実施される予定である。

(3) 令和8年度予算執行計画

運営交付金所要額積算内訳（教育共同利用実施分）

中口船長から、別紙18に基づき、説明があった。

- ・拠点費の予算は、約50万減額の4,322,000円である。
- ・主な支出はバス借り上げ費、観測機器整備、実習費用等であり、燃料代は運航費から支出する。

4. 教育共同利用拠点の申請（再認定）について

- ・小池委員から、第4期の共同利用拠点申請を予定している旨、説明があった。
社会貢献航海に学生を参加させ、単位取得可能とさせる方針が示された。
それに対し、広瀬委員および若林議長から、大学教員以外にも水族館職員など社会で活躍する人材に実習に参加していただき、学生のキャリア形成や社会貢献を促進することが提案された。
- ・小池委員から、女子学生が乗船しやすい環境整備が提案された。
- ・足立委員から、拠点申請における複数大学による共同利用実績の重要性が指摘された。
- ・北口委員から、新規利用大学の開拓や既存大学の継続利用が重要視されるため、参加者から知り合い大学への勧誘が提案された。

5. その他

(1) 令和8年度練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員について

- ・若林議長から、別紙19に基づき、来年度の委員構成の変更について説明があった。
来年度は小池委員が議長、中口船長、若林議長および和田委員が広島大学から参加し、北里大学からは広瀬委員に代わり新たに山田委員が加わる。鶴見精機の立川委員にも引き続き再任いただく予定である。
- ・若林議長から、高知大学、福山大学、北里大学に対し、令和8年度実習のシラバス提出を生物学系総括支援室より依頼する旨、説明があった。

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員名簿

令和8年度

所 属	役 職	氏 名	任期満了の日	備 考
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	議長（運営委 員会委員長） ・教授	小池 一彦	職指定	第1号委員
生物生産学部附属練習船 豊潮丸	副議長 船長・准教授	中口 和光	職指定	第2号委員
瀬戸内CN国際共同セン ター・生物生産学部	教授	和田 茂樹	～2028.3.31	第3号委員
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	准教授	若林 香織	～2028.3.31	第3号委員
高知大学 農林海洋科学部	教授	足立 真佐雄	～2028.3.31	第4号委員
福山大学 生命工学部	教授	北口 博隆	～2028.3.31	第4号委員
香川大学 農学部 瀬戸内圏研究センター	教授	一見 和彦	～2028.3.31	第4号委員
北里大学 海洋生命科学部	准教授	山田 雄一郎	～2028.3.31	第4号委員
株式会社 鶴見精機 営業部	主査	立川 洋美	～2028.3.31	第5号委員

参 考 资 料

1. 教育関係共同利用拠点に関する法令等

(1) 教育関係共同利用拠点制度について

教育関係共同利用拠点制度について

《制度の趣旨》

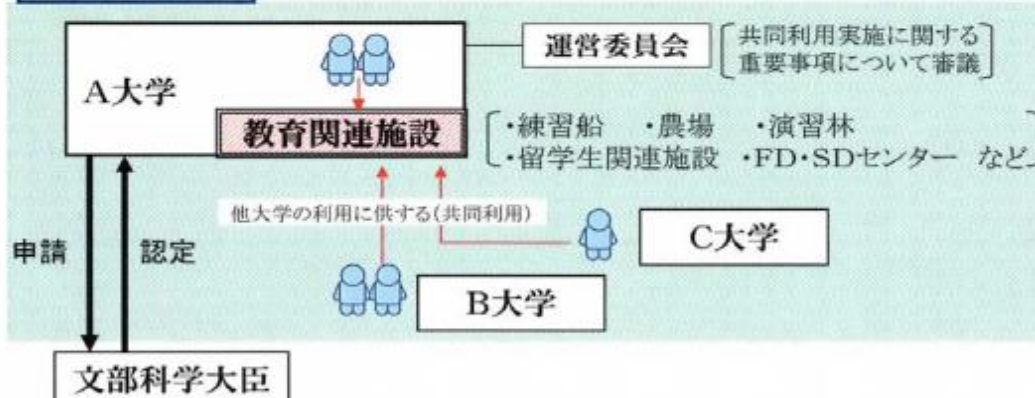
多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能別分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。

質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが必要不可欠。

大学の教育関連施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し(「教育関係共同利用拠点」。21年9月より施行)、大学間連携を図る取組を一層推進。

*「学校教育法施行規則(第143条の2)」、「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」(学術研究分野については、平成20年に「共同利用・共同研究拠点」を既に制度化)

《制度の概要》



【認定基準】

- 大学教育の充実に特に資すると認められるものであること
- 共同利用実施に関する重要事項について審議する委員会を置くこと
- 利用する大学を広く募集するものであること
- 共同利用に必要な設備・資料等を備えていること など

《中教審での審議状況》

- ・21年7月～8月 全国共同利用検討WGにて、改正内容に関して審議。
- ・22年8月22日 大学規模・大学経営部会に、制度の改正について報告。

(2) 学校教育法施行規則(抜粋)

(略)

第9章 大学

第1節 設備, 編制, 学部及び学科

第142条 大学(大学院を含み, 短期大学を除く。以下この項において同じ。)の設備, 編制, 学部及び学科に関する事項, 教員の資格に関する事項, 通信教育に関する事項その他大学の設置に関する事項は, 大学設置基準(昭和31年文部省令第28号), 大学通信教育設置基準(昭和56年文部省令第33号), 大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)及び専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令第16号)の定めるところによる。

2 短期大学の設備, 編制, 学科, 教員の資格, 通信教育に関する事項その他短期大学の設置に関する事項は, 短期大学設置基準(昭和50年文部省令第21号)及び短期大学通信教育設置基準(昭和57年文部省令第3号)の定めるところによる。

第143条 教授会は, その定めるところにより, 教授会に属する職員のうちの一部の者をもつて構成される代議員会, 専門委員会等(次項において「代議員会等」という。)を置くことができる。

2 教授会は, その定めるところにより, 代議員会等の議決をもつて, 教授会の議決とすることができる。

第143条の2 大学における教育に係る施設は, 教育上支障がないと認められるときは, 他の大学の利用に供することができる。

2 前項の施設を他の大学の利用に供する場合において, 当該施設が大学教育の充実に特に資するときは, 教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

第143条の3 大学には, 学校教育法第96条の規定により大学に附置される研究施設として, 大学の教員その他の者で当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させるものを置くことができる。

2 前項の研究施設のうち学術研究の発展に特に資するものは, 共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

(略)

(3) 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程 (平成21年8月20日文科科学省告示第155号)

(趣旨)

第1条 学校教育法施行規則(以下「規則」という。)第143条の2第2項の規定に基づく教育関係共同利用拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。

(認定の基準)

第2条 規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点(以下「拠点」という。)の認定の基準は次のとおりとする。

- (1) 学生に対する教育, 学生の修学等の支援, 教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって, 大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。
- (2) 拠点の認定を受けようとする施設(以下「申請施設」という。)が, 他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。
- (3) 申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ, 共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として, 次に掲げる委員で組織する委員会(この条及び次条において「運営委員会」という。)を置き, イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- (4) 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。
- (5) 申請施設の種類等に応じ, 共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。
- (6) 申請施設を利用する大学に対し, 申請施設の利用に関する技術的支援, 必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。
- (7) 申請施設の利用の方法及び条件, 利用可能な設備及び資料等の状況, 申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。
- (8) 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

(認定の申請)

第3条 申請施設を置く大学の学長は, 申請書に次に掲げる書類を添えて, 文部科学大臣に申請するものとする。

- (1) 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類
- (2) 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの
- (3) 申請施設の名称, 目的, 所在地その他の概要を説明する書類
- (4) 運営委員会の規則及び名簿
- (5) 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類
- (6) 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類
- (7) 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類
- (8) 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類
- (9) その他第2条に規定する基準に適合することを説明する書類

(認定の手続)

第4条 文部科学大臣は、前条の申請があった場合には、当該申請に係る認定をするかどうかを決定し、当該申請をした大学の学長に対し、速やかにその結果を通知するものとする。

2 文部科学大臣は、前項の認定を行う場合において、その有効期間を定めるものとする。

(変更及び廃止等の届出)

第5条 拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は、次に掲げる場合には、あらかじめ、その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。

(1) 当該施設の名称、目的又は所在地を変更しようとするとき。

(2) 当該施設を廃止しようとするとき。

(3) 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

(文部科学大臣への報告等)

第6条 学長は、毎年度、当該年度における共同利用の実施計画を定め、当該年度の開始前に、文部科学大臣に提出するものとする。

2 学長は、毎年度終了後3月以内に、当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ、文部科学大臣に提出するものとする。

(認定の取消し)

第7条 文部科学大臣は、拠点が第2条に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は第5条第2号若しくは第3号の届出を受けたときは、認定を取り消すことができる。

(認定等の公表)

第8条 文部科学大臣は、拠点の認定をし、又はこれを取り消したときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。

(4) 学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について(通知)

21年文科高第38号
平成21年8月27日

各国公私立大学長
大学を設置する各地方公共団体の長
各公立大学法人の理事長
大学を設置する各学校法人の理事長
大学を設置する各学校設置会社の代表取締役
放送大学学園理事長

殿

文部科学省高等教育局長

徳 永 保

学校教育法施行規則の一部を改正する省令 及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について (通知)

このたび、別添1とおおり、学校教育法施行規則の一部を改正する省令(平成21年文部科学省令第30号)が、また、別添2のおおり、教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程(平成21年文部科学省告示第155号)が、それぞれ平成21年8月20日に公布され、平成21年9月1日から施行されることとなりました。

今回創設される教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物質資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく大学の取組を支援するものです。

既に教育課程の共同実施制度や学術研究分野における共同利用・共同研究拠点制度が施行されているところですが、各大学におかれては、下記に示す今回の新たな制度の詳細について十分ご了知いただき、同制度をご活用いただくようお願い致します。

なお、文部科学大臣への申請様式や対象施設、施設の種類等に応じた認定基準等、申請手続きにあたり必要な事項や今後の申請スケジュール等については、別途お知らせします。

記

第1 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(平成21年文部科学省令第30号)の概要

- (1) 大学における教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができること。(第143条の2第1項関係)
- (2) (1)の施設を他の大学の利用に供する場合において、当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点(以下「拠点」という。)として文部科学大臣の認定を受けることができること。(第143条の2第2項関係)

第2 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成21年文部科学省告示第155号）の概要

（1）趣旨（第1条関係）

拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによること。

（2）認定基準（第2条関係）

拠点の認定の基準は次の①～⑧の要件に適合するものであること。

- ① 学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。（第1号）
- ② 拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずる学内規程等に記載されていること。新設の施設の場合にあつては，当該施設が設置された際に学内でどのような位置づけを有するのか明らかにすること。（第2号）
- ③ 開かれた運営体制を確保し，幅広い意見を拠点の運営等に反映させれるため，申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する運営委員会を置いていること。また，その際，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。なお，「申請施設の運営について権限を有する者」に具体的に該当する者については，各大学において実態に即して判断することとする。また，ロの委員については，学外者であることが望ましいこととする。（第3号）

イ 当該申請施設の職員

ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者

ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者

- ④ 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。なお，近隣の大学のみによる共同利用も許容されることとする。また，当該施設を利用する機関は大学のみ限定されるものではなく，各大学の判断で，大学以外に高等専門学校や専門学校等にも拠点の利用を認めることができるものであることとする。（第4号）
- ⑤ 申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備，要件及び資料，データベース等を備えていること。（第5号）
- ⑥ 申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。（第6号）
- ⑦ より多くの大学の利用を図り，成果を広く発信するという観点から，申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。（第7号）
- ⑧ 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。なお，望ましい具体的な利用大学数については，申請施設の種類等に応じて判断することとする。（第8号）

（3）認定の申請（第3条関係）

申請施設を置く大学の学長は，申請書に次の①～⑨の書類を添えて，文部科学大臣に申請すること。

- ① 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類（第1号）

- ② 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの（第2号）
- ③ 申請施設の名称，目的，所在地その他の概要を説明する書類（第3号）
- ④ 運営委員会の規則及び名簿（第4号）
- ⑤ 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類（第5号）
- ⑥ 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類（第6号）
- ⑦ 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類（第7号）
- ⑧ 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類（第8号）
- ⑨ その他第2条に規定する基準に適合することを説明する書類（第9号）

(4) 認定の手續（第4条関係）

文部科学大臣は，申請があった場合には，当該申請に係る認定をするかどうかを決定し，当議申請をした大学の学長に対し，速やかにその結果を通知するものとする。また，当該認定を行う場合において，その有効期間を定めるものとする。なお，有効期間については，各施設ごとに認定の際に判断することとする。

(5) 変更及び廃止等の届出（第5条関係）

拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は，次に掲げる場合には，あらかじめ，その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。

- ① 当該施設の名称，目的又は所在地を変更しようとするとき。
- ② 当該施設を廃止しようとするとき。
- ③ 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

(6) 文部科学大臣への報告等（第6条関係）

学長は，毎年度，当該年度における共同利用の実施計画を定め，当該年度の開始前に，文部科学大臣に提出するものとする。また，学長は，毎年度終了後3ヶ月以内に，当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ，文部科学大臣に提出するものとする。

(7) 認定の取消し（第7条関係）

文部科学大臣は，拠点が(2)に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は(5)②若しくは③の届出を大学から受けたときは，認定を取り消すことができる。

(8) 認定等の公表（第8条関係）

文部科学大臣は，拠点の認定をし，又はこれを取り消したときは，インターネットの利用その他適切な方法により，その旨を公表するものとする。

(9) 施行期日（附則関係）

教育関係共同利用拠点制度は，平成21年9月1日から実施するものであること。

2. 共同利用に関する広島大学の規則

(1) 練習船豊潮丸運営内規

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

平成16年4月26日

学部長決裁

改正 平成18.3.7, 平成21.4.20, 平成22.9.27, 平成23.8.24, 平成24.5.21, 平成24.6.21, 平成27.9.28, 平成29.1.23
平成30.2.15, 平成31.4.15, 令和2.6.2, 令和8.3.24

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

(趣旨)

第1条 この内規は、広島大学学則(平成16年4月1日規則第1号)第13条第2項の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 豊潮丸は、水産学、海洋学並びに広く生物生産学に関する教育研究を行い、これらの分野において貢献できる人材を育成するとともに、社会の発展に寄与することを目的とする。

(共同利用)

第3条 豊潮丸は、学校教育法施行規則(昭和22年5月23日文部省令第10号)第143条の2に基づき、他の大学等の利用に供することができる。

2 前項の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(船員)

第4条 豊潮丸に、広島大学船員就業規則(平成16年4月1日規則第79号)第2条に規定する船員を置く。

2 船員のうち船長及び一等航海士は、教員をもって充てる。

3 船長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

4 船員の服務等に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第5条 豊潮丸に、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

第6条 運営委員会は、次に掲げる構成員で組織する。

(1) 豊潮丸船長

(2) 副学部長(総務担当)

(3) 広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人

(4) 豊潮丸を利用する広島大学の教員若干人

2 前項第4号の委員は、学部長が任命又は委嘱する。

3 第1項第3号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 第1項第3号及び第4号の委員が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任者

の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第3号及び第4号の委員の任期は、学部長の任期を超えないものとする。

第7条 運営委員会は、豊潮丸に関し次に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 船員（船長及び一等航海士は除く。）の人事に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 運航計画に関すること。
- (5) 基地施設及び棧橋に関すること。
- (6) 船内の利用環境に関すること。
- (7) その他豊潮丸の運営に関すること。

第8条 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員のうちから学部長が指名する。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

第9条 運営委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第10条 豊潮丸の事務は、生物学系総括支援室において処理する。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、豊潮丸に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成16年4月26日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成18年3月7日 一部改正）

この内規は、平成18年4月1日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は、平成17年10月1日から適用する。

附 則（平成21年4月20日 一部改正）

この内規は、平成21年4月20日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は、平成21年4月1日から適用する。

附 則（平成22年9月27日 一部改正）

この内規は、平成22年9月27日から施行する。

附 則（平成23年8月24日 一部改正）

この内規は、平成23年8月24日から施行する。

附 則（平成24年5月21日 一部改正）

この内規は、平成24年5月21日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成24年6月21日 一部改正）

この内規は、平成24年6月21日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成27年9月28日 一部改正）

この内規は、平成27年9月28日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成29年1月23日 一部改正）

この内規は、平成29年1月23日から施行する。

附 則（平成30年2月15日 一部改正）

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月15日 一部改正）

この内規は、平成31年4月15日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和2年6月2日 一部改正）

この内規は、令和2年6月2日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則（令和8年3月24日 一部改正）

この内規は、令和8年4月1日から施行する。

(2) 練習船豊潮丸共同利用細則

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

平成22年9月27日

学部長決裁

改正 平成28.4.18, 平成29.1.23, 平成30.9.3, 平成31.4.15, 令和2.6.2, 令和7.3.19 令和7.12.22.

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

(趣旨)

第1条 この細則は、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規(平成16年4月26日学部長決裁。以下「運営内規」という。)第3条第2項の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)の共同利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この細則において、「共同利用」とは、他の大学(外国の大学を含む。)又は高等専門学校(以下「他大学等」という。)が教育課程上の実習等を行うため豊潮丸を利用すること(単位認定を含む。)をいう。

(共同利用運営協議会)

第3条 豊潮丸に、共同利用の実施に関する事項を審議するため、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会(以下「運営協議会」という。)を置く。

第4条 運営協議会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会委員長(以下「運営委員会委員長」という。)
- (2) 豊潮丸船長
- (3) 広島大学生物生産学部(以下「本学部」という。)専任の教員のうちから、広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人
- (4) 広島大学以外の大学又は高等専門学校に所属する練習船の共同利用に関する有識者若干人
- (5) 学部長が必要と認める者若干人

2 前項第3号から第5号までの委員は、学部長が任命又は委嘱する。

3 第1項第3号から第5号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 第1項第3号から第5号までの委員が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 運営協議会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 豊潮丸の共同利用に係る公募及び選考に関すること。
- (2) 豊潮丸の共同利用に係る運航計画に関すること。
- (3) 豊潮丸の共同利用に係る利用環境に関すること。
- (4) その他豊潮丸の共同利用に関すること。

第6条 運営協議会に議長を置き、運営委員会委員長をもって充てる。

2 議長は、運営協議会を主宰する。

3 運営協議会に副議長を置き、第4条第1項第2号及び第3号の委員のうちから、議長が指

名する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代行する。

第7条 運営協議会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第8条 運営協議会は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(公募及び決定)

第9条 学部長は、適切な時期に次年度の共同利用について公募を行う。

2 共同利用については、前項の公募により応募のあった他大学等のうちから選考するものとし、運営協議会における審議を経て、学部長が決定する。

(実習等の実施)

第10条 共同利用に参加する学生への実習等の指導については、本学部の教員及び豊潮丸の船員並びに利用する他大学等の教員が行うものとする。

(損害賠償)

第11条 共同利用を行う他大学等は、その責に帰すべき事由により、豊潮丸の設備及び備品等を損傷又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

2 本学部は、その責に帰さない事由により、共同利用に参加した学生等に事故が発生したときは、その損害の賠償の責を負わない。

(事務)

第12条 共同利用に関する事務は、生物学系総括支援室において処理する。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、共同利用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この細則は、平成22年9月27日から施行する。

2 この細則の施行後最初に任命又は委嘱される運営協議会委員の任期は、第4条第3項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則(平成28年4月18日 一部改正)

この細則は、平成28年4月18日から施行し、この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は、平成28年4月1日から適用する。

附 則(平成29年1月23日 一部改正)

この細則は、平成29年1月23日から施行する。

附 則(平成30年9月3日 一部改正)

この細則は、平成30年9月3日から施行する。

附 則(平成31年4月15日 一部改正)

この細則は、平成31年4月15日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則(令和2年6月2日 一部改正)

この細則は、令和2年6月2日から施行し、この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則(令和7年3月19日 一部改正)

この申合せは、令和7年4月1日から施行する。

附 則(令和7年12月22日 一部改正)

この申合せは、令和8年1月1日から施行する。

(3) 練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

(平成30年 7月20日学部長決裁)

改正 令和2年10月29日一部改正

改正 令和7年10月1日一部改正

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

第1 この申合せは、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規（平成16年4月26日学部長決裁）第11条及び広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則（平成22年9月27日学部長決裁。以下「利用細則」という。）第13条の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の共同利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 利用細則第2条に定める共同利用において、申請ができる機関及び個人は次のとおりとする。

(1) 国内外の大学又は高等専門学校（以下「他大学等」という。）

(2) 豊潮丸に乗船を希望する他大学等の学生及び航海責任者が航海計画において同乗することを認めた者（以下「学生等」という。）

(共同利用の区分)

第2 共同利用は次の区分に分けて、公募の実施又は利用申請を受け付けるものとする。

(1) 単独航海利用

教育実習航海として他大学等が航海計画を立案し、他大学等の学生が乗船定員の範囲内で教員の引率の下、実施する航海において利用する場合。

(2) 混乗航海利用

広島大学が主催する教育実習航海，調査実習航海，社会貢献航海のうち，乗船定員に余席がある航海において，航海責任者が認めた学生等が利用する場合。

(共同利用の公募)

第3 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」）は、利用規則第5条1号に規定する共同利用に係る公募及び選考を行うため、毎年度、第2(1)及び(2)の区分ごとに公募要領を作成し、関係の他大学等へ周知を行うほか、生物生産学部ホームページ等を活用し、広く共同利用の公募を行うものとする。

2 公募要領には、公募内容、申込資格、申込期限、申込先、審査及び採否などの情報を記載する。

(利用申請)

第4 共同利用を希望する者は、利用の区分ごとにそれぞれ次に定める様式に必要な事項を記載し、利用申請するものとする。

(1) 単独航海利用……別記様式1

(2) 混乗航海利用……別記様式2

(利用の許可)

- 第5 第4(1)については、運営協議会で審査・承認後、学部長が許可を行い申請者に通知するものとする。
- 2 第4(2)については、航海責任者が余席及び乗船について確認を行い、航海責任者が利用の可否を決定し、申請者に連絡するものとする。
- 3 利用を許可された者は、別記様式3に定める「乗船者名簿・食事表」を作成の上、航海責任者を通じて航海実施日の12日前までに提出し、内容の確認を受けるものとする。
- 4 利用を許可された者は、別記様式4に定める「覚書」を航海実施日の2営業日前までに提出するものとする。なお、「覚書」を提出しない者は乗船の許可を取り消す。
- 5 別紙様式1, 2, 3及び4はPDFファイル等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室へ提出するものとする。

(利用にかかる経費)

- 第6 豊潮丸乗船に際し、利用者が負担すべき経費は別に定める。

(共同利用以外の利用)

- 第7 共同利用以外に練習船基地(棧橋)の利用に関する申請があった時は、豊潮丸船長が利用申請の可否について決定し、通知するものとする。
- 2 練習船基地(棧橋)の利用を希望する者は、原則として利用日の2営業日前までに別記様式5に必要事項を記載し、豊潮丸に利用申請するものとする。

附 則

- 1 この申合せは、平成30年7月21日から施行する。
- 2 この申合せの制定に伴い、「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用に関する申し合わせ(平成29年7月4日承認)」は廃止とする。

附 則

この申合せは、令和2年10月29日から施行する。

附 則

この申合せは、令和7年10月1日から施行する。

附属練習船共同利用申請書(単独航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和 年 月 日

利用代表者(申請者)

大 学 名
職 名 等
氏 名
連絡先(電話番号)
Eメールアドレス

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
利用計画	(目的・教育・調査研究内容等:※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。)			
利用希望者 (別紙添付可)	氏名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
航海責任者:所属機関連絡先(※申請者と同じ場合は記入不要)			備考欄	
航海責任者 氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス				

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿を航海実施日の**12日前まで**に、覚書を航海実施日の**2営業日前まで**に提出願います。
- * 提出書類は、PDF等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室に送信してください。

上記の利用申請について、許可します。

令和 年 月 日

広島大学生物生産学部長

(公印省略)

- * 豊潮丸船舶利用料が発生する場合は、以下も記載してください。

	請求書送付先の住所及び氏名又は名称		会計担当者連絡先
住所 氏名又は名称		担当者住所 氏名 (部署・職名) TEL	

附属練習船共同利用申請書(単独航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例

利用代表者(申請者)

大 学 名 〇〇大学大学院〇〇研究科
職 名 等 教授
氏 名 〇〇 〇〇
連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX(内XXXX)
Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
利用計画	(目的・教育・調査研究内容等:※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。)			
	別紙のとおり			
利用希望者 (別紙添付可)	氏 名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・教授	〇〇保険	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M2	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M1	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O	
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
	プランクトンネット(手で引くことのできるサイズ)		実体顕微鏡 ドローン 暗箱	
航海責任者:所属機関連絡先(※申請者と同じ場合は記入不要)			備考欄	
航海責任者 氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス	申請者と同じ			

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿を航海実施日の**12日前まで**に、覚書を航海実施日の**2営業日前まで**に提出願います。
- * 提出書類は、PDF等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室に送信してください。

上記の利用申請について、許可します。

令和 年 月 日

広島大学生物生産学部長

(公印省略)

- * 豊潮丸船舶利用料が発生する場合は、以下も記載してください。

	請求書送付先の住所及び氏名又は名称		会計担当者連絡先
住所 氏名又は名称	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇大学〇〇学部 教授	担当者住所 氏名 (部署・職名) TEL	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇大学〇〇学部支援室(担当〇〇) XXX-XXX-XXXX(内線XXXX)

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和 年 月 日

利用代表者(申請者)

所属大学名等

学年・職名等

氏 名

連絡先(電話番号)

Eメールアドレス

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設		附属練習船豊潮丸		
航海名(整理番号)		航海責任者		
利用希望者 (別紙添付可)	氏名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
申請者所属機関 指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス				

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿を航海実施日の**12日前まで**に、覚書を航海実施日の**2営業日前まで**に提出願います。
- * 提出書類は、PDF等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室に送信してください。

* 豊潮丸船舶利用料が発生する場合は、以下も記載してください。

	請求書送付先の住所及び氏名又は名称		会計担当者連絡先
住所 氏名又は名称		担当者住所 氏名 (部署・職名) TEL	

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例1
学生が個人で参加する場合

利用代表者(申請者)

所属大学名等 〇〇高等専門学校
 学年・職名等 〇〇科 5年
 氏 名 〇〇 〇〇
 連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX(内XXXX)
 Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
航海名(整理番号)	〇〇〇〇実習(XXXX)		航海責任者	〇〇 〇〇
利用希望者 (別紙添付可)	氏名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 5年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
	ORIネット 集魚灯		冷却装置 観察用プラスチックケース	
申請者所属機関 指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名	〇〇 〇〇			
(部署・職名)	〇〇高等専門学校 〇〇科 教授			
TEL	XXX-XXX-XXXX			
Eメールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇			

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿を航海実施日の**12日前まで**に、覚書を航海実施日の**2営業日前まで**に提出願います。
- * 提出書類は、PDF等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室に送信してください。

- * 豊潮丸船舶利用料が発生する場合は、以下も記載してください。

	請求書送付先の住所及び氏名又は名称		会計担当者連絡先
住所 氏名又は名称	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇高等専門学校 〇〇科 教授	担当者住所 氏名 (部署・職名) TEL	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇高等専門学校 〇〇 〇〇 XXX-XXX-XXXX

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例2
教員が取りまとめて
学生を集団で参加させる場合

利用代表者(申請者)

所属大学名等 〇〇高等専門学校
 学年・職名等 教授
 氏名 〇〇 〇〇
 連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX(内XXXX)
 Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
 なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
航海名(整理番号)	〇〇〇〇実習(XXXX)		航海責任者	〇〇 〇〇
利用希望者 (別紙添付可)	氏名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 5年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 4年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 3年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
	ORIネット 集魚灯		冷却装置 観察用プラスチックケース	
申請者所属機関 指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名	〇〇 〇〇			
(部署・職名)	〇〇高等専門学校 学生課教務係			
TEL	XXX-XXX-XXXX			
Eメールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇			

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿を航海実施日の**12日前まで**に、覚書を航海実施日の**2営業日前まで**に提出願います。
- * 提出書類は、PDF等の電子媒体により豊潮丸と生物学系総括支援室に送信してください。

* 豊潮丸船舶利用料が発生する場合は、以下も記載してください。

	請求書送付先の住所及び氏名又は名称		会計担当者連絡先
住所 氏名又は名称	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇高等専門学校 〇〇科 教授	担当者住所 氏名 (部署・職名) TEL	〒XXX-XXXX 〇〇〇〇〇〇 〇〇高等専門学校 〇〇 〇〇 XXX-XXX-XXXX

練習船豊潮丸

乗船者名簿

申込責任者:						広島大学の方 への質問です		広島大学 以外の方への質問です	
						TA又は実習生の確認		豊潮丸乗船歴の有・無	
氏名	身分 (職名・学年・学生番号)	性別	緊急時連絡先 (実家・父・母等 記入の事)	加入保険の名称	現住所・携帯電話番号	TAは○を付けて ください	実習生は○を 付けてください	学生	学生以外
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
						0	0	0	0

※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金=朝:400円、昼:600円、夕:600円)

メールに添付する場合は、パスワードを掛けてください。

練習船豊潮丸

申込責任者:

氏名	身分 (職名・学年・学生番号)	性別	期間 月～月	乗下船地 乗船～下船	/ 日		/ 日		/ 日		/ 日		/ 日		/ 日		/ 日		食数	備考 (アレルギー等)			
					朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼			夕	朝	昼
1																				0			
2																				0			
3																				0			
4																				0			
5																				0			
6																				0			
7																				0			
8																				0			
9																				0			
10																				0			
11																				0			
12																				0			
13																				0			
14																				0			
15																				0			
16																				0			
17																				0			
18																				0			
19																				0			
20																				0			
※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこ					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金=朝:400円、昼:600円、夕:600円)

練習船豊潮丸

乗船者名簿

申込責任者： 広島一郎

						広島大学の方 への質問です		広島大学 以外の方への質問です	
						TA又は受講生の確認		豊潮丸乗船歴の有・無	
氏名	身分 (職名・学年・学生番号)	性別	緊急時連絡先 (実家・父・母等 記入の事)	加入保険の名称	現住所・携帯電話番号	TAは○を付けて ください	実習生は○を 付けてください	学生	学生以外
1	広島一郎	広島大学生物生産学部・教	男	090-0123-4567(妻)	労災	東広島市鏡山1-4-4 電話 000-0000-0000			
2	豊潮太郎	4年生 1234567	男	090-1234-5678(父)	学研災	広島県呉市宝町7-4 電話 000-0000-0000		○	
3	広島二郎	M1 0000000	男	090-1234-5679(父)	学研災	東広島市鏡山1-4-5 電話 000-0000-0000	○		
4	マイケル・トヨシオ	〇〇大学教授	男	090-1234-5680(父)	労災	広島県呉市宝町7-5 電話 000-0000-0000			○
5	呉市太郎	〇〇大学4年生	男	090-1234-5681(父)	〇〇保険	東広島市鏡山1-4-6 電話 000-0000-0000			○
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
						1	1	1	1

※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金=朝:400円、昼:600円、夕:600円)

メールに添付する場合は、パスワードを掛けてください。

練習船豊潮丸

食事申込書

申込責任者： 広島一郎

氏名	身分 (職名・学年・学生番号)	性別	期間		乗下船地		11/2日			11/3日			11/4日			11/5日			/日			/日			/日			/日			食数	備考 (アレルギー等)	
			月日	~月日	乗船	下船	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕			
1 広島一郎	広島大学生物生産学部・教	男	11/2	11/5	呉	呉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○															10		
2 豊潮太郎	4年生 1234567	男	11/2	11/5	呉	呉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○														10	そばアレルギー		
3 広島二郎	M1 0000000	男	11/2	11/5	呉	呉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○														10			
4 マイケル・トヨシオ	〇〇大学教授	男	11/2	11/5	呉	呉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○														10	ムスリム(酒、豚、×)		
5 呉市太郎	〇〇大学4年生	男	11/2	11/5	呉	呉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○														10			
6																														0			
7																															0		
8																															0		
9																															0		
10																															0		
11																															0		
12																															0		
13																															0		
14																															0		
15																															0		
16																															0		
17																															0		
18																															0		
19																															0		
20																															0		
							0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	

※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金=朝:400円、昼:600円、夕:600円)

広島大学生物生産学部長 殿

覚書

令和 年 月 日から令和 年 月 日の間、豊潮丸乗船及び基地施設
使用の許可を得ましたが、乗船中及び基地施設使用中、自己の不注意により事故が生じ
た場合、身体上・財産上の損害補償については一切自己において責任を持ち、貴学に
ご迷惑をお掛けいたしません。

令和 年 月 日

名前 印

(自署の場合は、押印不要)

The Dean of the Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University

Pledge

I,(name) _____, am allowed to ride on board of the Toyoshio Maru on (Date) , under the following conditions:

“I promise to take full responsibility on the compensation fees of any trouble/accident caused by my careless mistakes while being on board of the Toyoshio Maru, without causing any problems to your faculty at Hiroshima University.”

Date(month/day/year) : _____ Name: _____

Signature: _____

附属練習船基地(栈橋)利用申請書								
広島大学生物生産学部長 殿				令和 年 月 日				
利用代表者(申請者)								
所属機関名								
職 名								
氏 名								
連絡先(電話番号)								
Eメールアドレス								
下記のとおり「附属練習船基地(栈橋)」の一時利用をたく申請します。 なお、利用に際し、貴学の栈橋等構造物に損害を与えた場合は、賠償責任を負い、速やかに修復することを誓約します。 また、利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は、速やかに出港し退避します。								
利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(栈橋)							
利用目的								
船舶名称								
船舶諸元	全長	m	全幅	m	喫水	m	トン数	トン
船長氏名								
栈橋 利用期間	自:令和 年 月 日 時 分頃入港予定			～ 令和 年 月 日 時 分頃出港予定				
備考								
船舶 保 険 加 入 (必須)	船舶保険の名称	船舶保険の内容			申請者所属機関 緊急連絡先情報			
					担当者氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス			

*1 この利用申請書は、pdfのメール送信で受け付けるものとする。

*2 船舶保険加入欄は、船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。

*3 国の機関の船舶が利用申請する場合、船舶保険加入欄の記載は不要とする。

*4 個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)

*5 利用許可の可否は、豊潮丸船長から申請者に通知する。

附属練習船基地(栈橋)利用申請書

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例

利用代表者(申請者)

所属機関名 〇〇機構〇〇丸
 職 名 船長
 氏 名 〇〇 〇〇
 連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX
 Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船基地(栈橋)」の一時利用をたく申請します。
 なお、利用に際し、貴学の栈橋等構造物に損害を与えた場合は、賠償責任を負い、速やかに修復することを誓約します。
 また、利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は、速やかに出港し退避します。

利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(栈橋)							
利用目的	台風〇号接近に伴い寄港地を変更するため、仮停泊場所として貴栈橋を利用したい。							
船舶名称	〇〇機構〇〇丸							
船舶諸元	全長	XX.X m	全幅	XX.X m	喫水	XX.X m	トン数	XXX トン
船長氏名	〇〇 〇〇							
栈橋利用期間	自: 令和〇〇年〇〇月〇〇日				～ 令和〇〇年〇〇月〇〇日			
	〇〇時〇〇分頃入港予定				〇〇時〇〇分頃出港予定			
備考								
船舶 保 険 加 入 (必須)	船舶保険の名称		船舶保険の内容			申請者所属機関 緊急連絡先情報		
	〇〇〇〇保険		船主責任保険(P&I保険)			担当者氏名	〇〇 〇〇	
						(部署・職名)	〇〇係・係長	
						TEL	XXX-XXX-XXXX	
						Eメールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇	

- *1 この利用申請書は、pdfのメール送信で受け付けるものとする。
- *2 船舶保険加入欄は、船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。
- *3 国の機関の船舶が利用申請する場合、船舶保険加入欄の記載は不要とする。
- *4 個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)
- *5 利用許可の可否は、豊潮丸船長から申請者に通知する。

3. 豊潮丸の共同利用の概要

(1) 取組の趣旨・目的

本事業は、教育関係共同利用拠点としての広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の効率的かつ効果的な拠点運営を支援することを目的としており、その目的を達成するために、共同利用校の拡張、教育プログラムの充実化と開発、ならびに教育設備の充実化など、瀬戸内海における里海教育の中核として豊潮丸が機能するための支援環境の整備を行い、我が国の直面する水産・環境問題、社会経済問題、および島嶼部の文化・歴史的背景に精通した人材を育成することを目標とする。

これまでも豊潮丸では、学外の学生を対象とした教育航海を通じて「瀬戸内海における人と海の関わり」と「瀬戸内海的环境としての特異性」について、水産学、海洋学、生物学、歴史民俗学、文化人類学等の多様な切り口からの理解を進め、里海がもたらす恵みとその豊かさを、実感として理解させる教育活動の実践を進めてきた。本事業は、そのような他大学に属する海洋に興味を持つ学生が航海実習・演習に正規の科目として参加できる教育機会をさらに拡張・充実化させ、大学間共同利用体制を強化することを目指すものである。

人間が里海から受ける恩恵によって成り立ってきた文化・歴史的背景や、第一次産業構造、沿岸の人間活動や開発が里海的环境および生態系に与えた影響などの諸問題を現場で理解させるフィールド教育は、一般社会人として身に付けておかねばならない海洋基本法が謳う理念の啓蒙の推進、海洋基本計画が求める人材の育成に大きく貢献しうるものである。

さらに「里海」というキーワードの下、他大学他分野の学生の専門教育の場としての意義もある。工学や環境学などの理系分野に加えて、農漁村学・ツーリズムといった社会経済学的な分野の学生にも洋上教育の場を提供することも積極的に推進し、一人一人の学生に多様な問題意識を惹起せしめることも期待できる。

また、乗船経験を経た学生にとっては、豊潮丸で過ごす数日間の洋上体験は一生の思い出となるだけでなく、その結果、水産学・海洋学そして練習船に対する良き理解者になることは間違いない。混乗による実習では複数の大学の学生が乗り合わせて、共同作業をすることにより、参加学生の視野が広がるだけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。一方、他大学の下級生を指導する立場の本学学生にとっても、自らの専門的知識と技術の向上にはげみ、リーダーシップを培うことができる。このように、練習船ゆえの教育効果を広く供与しうることもつながる。

加えて、身近な海洋環境の多様な魅力を引き出そうとする本事業の里海教育は、フィールド教育に於ける大学間連携の新たなモデルとして注目しうるものとなるはずである。

(2) 拠点の認定理由

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸は、平成24年7月31日付け24文科高第403号により、学校教育法施行規則第143条の2に基づき、「教育関係共同利用拠点」に認定されたものである。

教育関係共同利用拠点名は「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点」、認定の有効期間は「平成24年7月31日～平成29年3月31日」である。

「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規定(平成21年8月20日文科省告示第155号)」第2条に規定されている次の認定基準を満たすものとして認定された。

第2期、平成28年7月29日付け28文科高第456号により、「教育関係共同利用拠点」に再認定された。認定の有効期限は「平成29年4月1日～平成34年3月31日」である。

第3期、令和3年7月30日付け3文科高第465号により、「教育関係共同利用拠点」に再認定された。教育関係共同利用拠点名は「人と海の持続的共存・発展を目指したOn-ship里海教育 共同利用拠点」、認定の有効期限は「令和4年4月1日～令和9年3月31日」である。

【教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（抜粋）】

(認定の基準)

第2条 規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

- (1) 学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。
- (2) 拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。
- (3) 申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する委員会（この条及び次条において「運営委員会」という。）を置き，この委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- (4) 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。
- (5) 申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。
- (6) 申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。
- (7) 申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。
- (8) 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。



24文科高第403号
平成24年7月31日

広島大学

学長 浅原 利正 殿

文部科学大臣 平野 博文



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2に基づき、貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の参考としてください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

2. 認定の有効期間

平成24年7月31日～平成29年3月31日

3. 特記事項

これまでの共同利用の実績や多数の利用が見込まれる点は評価できる。瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点としての今後の活動を期待する。

28文科高第456号

平成28年7月29日

広島大学

学長 越智 光夫 殿

文部科学大臣 馳 浩



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2の規定に基づき、貴学の「生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

2. 認定の有効期間

平成29年4月1日 ～ 平成34年3月31日

3. 特記事項

教育関係共同利用拠点としての活動を行うにあたっては、以下の点に留意されたい。

- (1) 近年の全受講者に占める女子学生の割合等の増加を踏まえると、女性の施設利用に支障がない環境の充実が求められる。そのため、運営委員会の女性委員比率を高め、女性に配慮した環境づくりに一層努めることが望まれる。
- (2) 運営委員会等での議論を踏まえた教育の質向上に資する取組については、その成果を積極的に広報し、教育関係共同利用拠点の充実に努めること。

以上

広島大学長 殿

文部科学大臣 萩 生 田 光 一

教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第 143 条の 2 の規定に基づき、貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議等における審査において、下記 3 のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「人と海の持続的共存・発展を目指した On-ship 里海教育 共同利用拠点」

2. 認定の有効期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

3. 特記事項

女性乗船者に配慮し、女性教員を運営委員会委員長および共同利用運営協議会議長とし、女性乗船者がより利用しやすい船内環境の整備を進めている点は評価できるが、船内での配慮を充実するために乗組員として女性を配乗することや、乗組員として女性が確保できないのであれば、女性教員が乗船してサポートする体制をより強化することが望まれる。

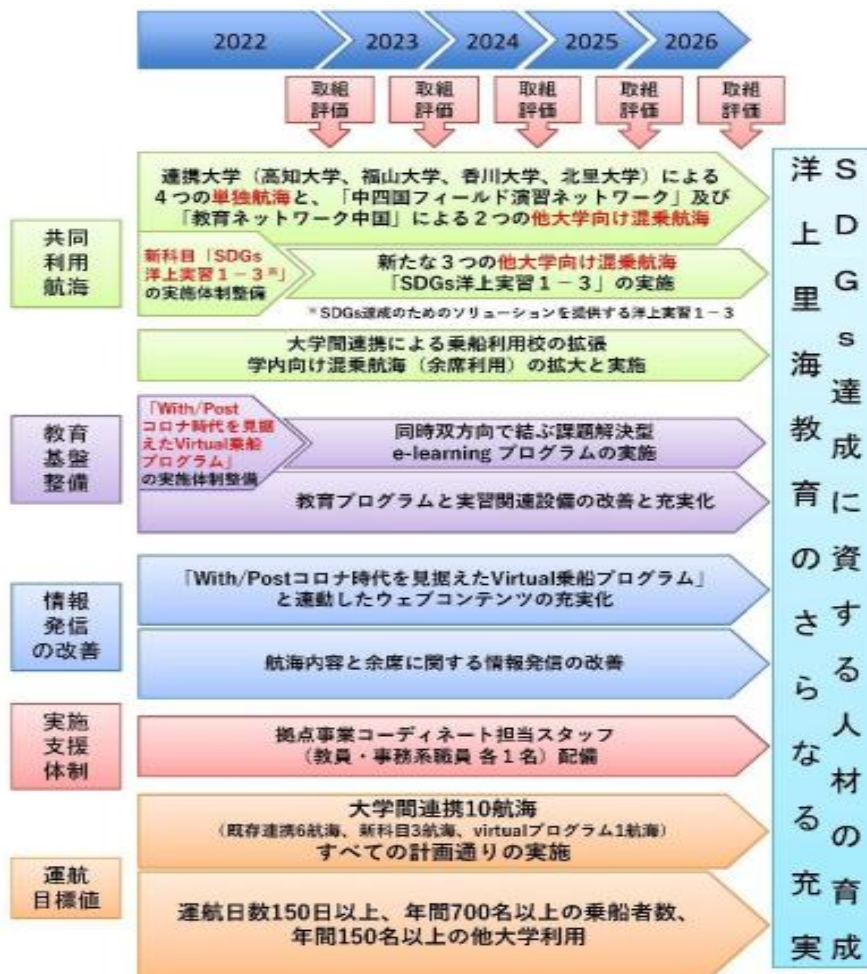
【本件担当】

文部科学省高等教育局大学振興課
大学改革推進室学務係（木俣）
電話：03-6734-3334（直通）
03-5253-4111（内線 3334）
E-mail：daikaika@mext.go.jp

(3) 取組計画

練習船豊潮丸では、平成24年に「教育関係共同利用拠点」（以下「教育拠点」）の認定を受けたことを契機に、広大な「里海」である瀬戸内海の中央部に位置する利点を生かし、海洋環境や水産生物の生産過程ならびに「里海」と沿岸住民との持続的共存に関する学習の機会を、全国の大学および高等専門学校等に提供するための教育機能および行動利用体制を強化させる取り組みを進めてきた。

そこで本事業では、共同利用を推進させるこれまでの取り組み事業を基盤として維持・継承しつつ、他大学などの学生の乗船機会を拡大させ、学生一人一人の個性を伸ばし得るような発展的学習の機会を提供する教育拠点としての新展開を目指す。具体的には、1) 年間150日を超える運航実績（整備航海を除く）、2) 年間約700名の乗船者、3) すべての大学間連携航海（単独航海と他大学向け混乗航海）の計画通りの実施、4) 年間150名を超える他大学利用、の4点を従来と同様に維持させつつ、5) 他大学学生の乗船機会の拡大と、より高度な学習機会を求める再乗船学生（学習リピーター）への対応を主眼に置いた取り組みを進める。



(4) 実施体制

豊潮丸の管理運営、船員の人事、予算・決算など運営に関する必要事項については、豊潮丸の船長と一等航海士、支援室長および学部教員6名から構成された「豊潮丸運営委員会」が、共同利用に関しては、学内委員4名、学外委員5名からなる「豊潮丸共同利用運営協議会」がそれぞれ審議・決定している。

豊潮丸には、船長以下、3名の航海士、機関長、機関士、機関員、2名の甲板員、司厨長の、合計10名の船員が配置されている。このうち、2名は海事職教員（船長：准教授、一等航海士：助教）である。演習・実習の教育に際しては、海事職教員2名の責任の下、豊潮丸船員が中心となり、観測調査作業、海洋生物採集作業等の指導にあたる。

連携教育機関が実施する単独航海については、利用大学の引率教員、海事職教員が共に教育指導にあたる。残りの豊潮丸船員が利用大学の教員・学生の教育・実習の支援を行う。

また、広島大学が主催し学外学生を対象とした混乗航海「里海フィールド演習」、「飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習」、「Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習」、「里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習」および「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」では、生物生産学部専任教員が、豊潮丸船員と共に実習の指導にあたる。

共同利用に係る航海で女性乗船者が参加した際には、船長及び航海代表者の要請に基づいて女性教員または乗船経験の豊富な女性TAを配置する。豊潮丸の運航および共同利用に関する事務は、生物学系総括支援室が一括して管理する。

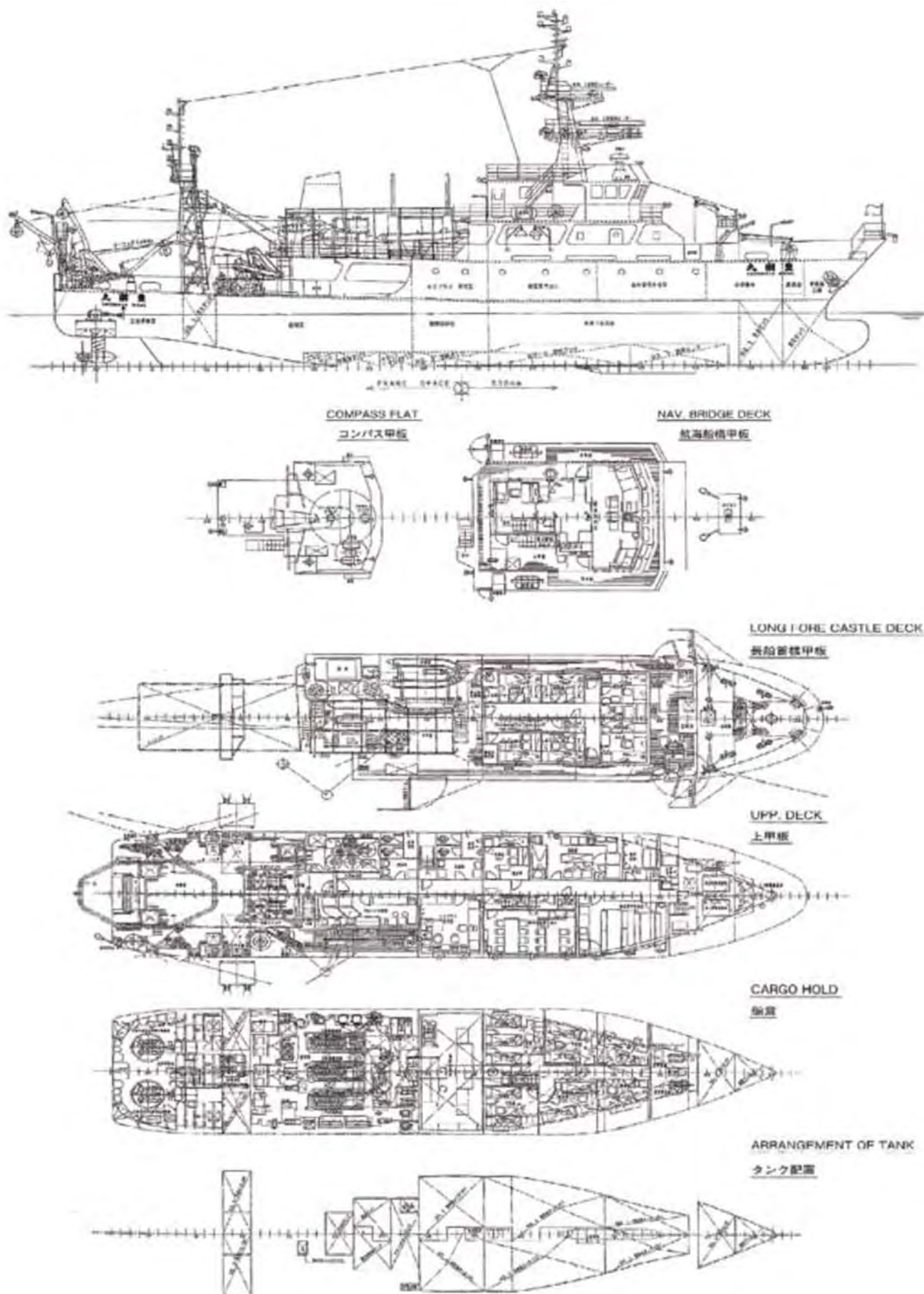
4. 豊潮丸の概要

主要目 Ship specifications

船舶番号 Official Number	第 140428 号
信号符号 Call sign	7JBU
漁船登録番号 Registry number of fishing vessel	HS1-24
船種 Type of Vessel	汽船 Motor Vessel
用途および従業制限 Service and fishing restriction	漁業練習船, 第三種船 Fisheries training vessel, Category 3
IMO 番号 International Marine Organization number	IMO9384423
船級 Classification	JG
船質 Material of Hull	鋼 steel
所有者 Owner	国立大学法人広島大学 Hiroshima University
船籍港 Port of Registry	広島県呉市 Kure, Hiroshima
長さ (全長) Length Over All	40.50m
長さ (垂線間長) Length between Perpendiculars	35.50m
幅 (型) Breadth(mid)	8.50m
深さ (型) Register Depth(mid)	3.71m
満載吃水 Full load Draft	3.1m
総トン数 Gross Register tonnage	256t
航海速力 Service speed	10 ノット (時間/海里) knots
航続距離 Endurance	2900 海里 nautical miles
航行区域 Navigation area	第3種 (A2水域であってNAVTEX水域に限る)
航海日数 Endurance	10 日 days
最大搭載人員 Complement	船員 12 名, 教員 2 名, 学生 18 名, 計 32 名 Officers and Crew members 12P, Professors 2P, Students 18P, Total 32P 臨時定員 (平水区域 6 時間未満) 62 名 Special regular number, in Heisui area, designated pursuant to Ordinance for Enforcement of the Ship Safety Act, no longer than 6 hours, Total 62P
燃料油槽容積 Fuel oil tank	71.2 m ³
水槽容積 Fresh water tank	41.6 m ³

<p>発電機関 Engine for generators</p>	<p>立形単動直列 6 気筒 4 サイクル過給機空気冷却器付ディーゼル機関 441kW(600PS)×1200RPM 3 台 6 cylinder 4 cycle diesel engines have vertical single series with turbo charger & air cooler 441kw(600PS)×1200rpm×3sets</p>
<p>発電機 Generator</p>	<p>防滴自己通風型片軸受自己給油式ブラシレス交流発電機 400kW×450V×60Hz 3 台 Self-oiling brushless alternative generators have one side bearing with water proof & self-air draft 400kW×450V×60Hz×3sets</p>
<p>推進電動機 Propulsion motors</p>	<p>全閉防まつ形水冷空気冷却器付自己通風形 船用三相誘導電動機 2 台 405kW/55kW×1180RPM/585RPM All mounting close 3 phase electric motors for ship have water proof & self-air draft through water 405kW/55kW × 1180RPM/585RPM×2sets</p>
<p>推進機 Propulsion system</p> 	<p>全旋回式縦軸型推進機（プロペラ回転方向：船尾より見て内回り） 2 台 プロペラ回転数：245RPM (入力軸回転数 1180RPM のとき) プロペラ直径：1900mm (ハイスキュード可変ピッチプロペラ) 360° Rotating-2axis-vertical propulsion system × 2sets： Inside rotation Propeller revolution:245rpm (Input axis revolution: 1180rpm) Propeller diameter:1900mm (High-skewed 3 blades variable pitch)</p>
<p>無線装置 Wireless equipment</p>	<p>国際 VHF 2 台 Match for A1, A2, A3 GMDSS, International VHF×2</p>
<p>船舶電話 Ship telephone</p>	<p>沿岸用衛星船舶電話 1 台 090-3022-4347 Coastal satellite telephone ×1</p>
<p>竣工年月日 Date of delivered</p>	<p>平成 18 年 11 月 29 日 Nov.29,2006</p>
<p>造船所 Builder</p>	<p>三井造船株式会社 Mitsui Engineering & Shipbuilding Co., Ltd.</p>

一般配置図 General arrangement



航海区画 Navigation/chart space

航海に関する操作・監視設備を集約している。操縦盤で推進装置, 可変ピッチプロペラを操作する。海図室区画に船舶電話を設置している。

< 航海設備 >

マグネットコンパス (投影式)	Magnet compass (Projection formula)	R165A	布谷船用 計器工業
ジャイロコンパス	Gyro compass	TG-8000	東京計器
サテライトコンパス	Satellite compass	SC-110	古野電気
レーダ Sバンド	Radar S-Band with ARPA	FAR-2127-20AF	古野電気
レーダ Xバンド	Radar X-Band with ARPA	FAR-2137S-30AF	古野電気
DGPS 航法装置	Differential global positioning system navigator	GP-150	古野電気
電子海図	Electronic chart display and information system	EC-7000	古野電気
自動気象観測装置	Automatic weather observation system		ANEOS
国際船舶自動識別装置(AIS)	Automatic identification system	FA-150	古野電気
音響測深器	Navigational echo sounder	FE-700	古野電気
デジタル水温計	Digital water temperature indicator	TI-20	古野電気
船舶用水晶親時計装置	Marine crystal master clock	TXS-12S	古野電気
電磁ログ	Electromagnetic log	EML500	YOKOGAWA
カラー魚群探知機	Color video sounder	FCV-1500L	古野電気
カラースキャニングソナー	Color scanning sonar	FSV-30	古野電気
高機能魚群探知機	High performance video sounder	FCV-30	古野電気



機関区画 Engine room

機関制御室及び機関室並びに主推進機室を有し、機関室に設置された自動制御発電機3台により推進用電力をはじめ船内の全ての電力需要に応じた電力を供給し、各発電機関の最適負荷にて運航する。機関室や機関制御室においては、発電機関や推進装置をはじめ全ての機器において始動停止操作及び制御を行うことができ、機関制御室ではデータロガーによる各機器の温度・圧力等の計測・監視・記録を行なうとともに、統合制御システムによる推進機を含めた機関部全般機器の制御を行う。また、主配電盤により、各発電機の周波数・電圧の制御ならびに並列運転・負荷分担や、負荷状態に合わせた自動始動・停止を行うことができる（パワーマネジメント）。主推進機室には電気推進装置が設置され、全旋回式縦軸型推進機が推進電動機により駆動される。

<機関設備>

発電機関 3台	Engine for generator 3sets	6NY16L-EN	ヤンマー
発電機 3台	Generator 3sets	NTAKL-VEK	西芝電機
推進電動機 2台	Propulsion motor 2sets	NTIKE-RCK5	西芝電機
推進機 2台	Propulsion system 2sets	KST-130ZC/ADN	川崎重工業
クラゲ除去装置 1式	Jellyfish removal system 1set	JF-140	菱洋産業
油水分離器 1式	Bilge separator system 1set	USH-03	大晃機械工業
海洋生物付着防止装置 1式	Marine life exclusion system 1set		アタカ大機
機関部統合制御システム 1式	Engine central control system 1set		JRCS



機関制御室 / Engine control room



発電機関 / Engine for generator



推進装置 / Propulsion system



クラゲ除去装置 / Jellyfish removal system

無線区画 Radio space

無線に関する操作, 監視設備を集約している. また, 全球海上遭難・安全システム (GMDSS: [Global Maritime Distress and Safety System](#)) 対応の設備を設け, 通信機能の効率化を図っている.

<無線設備>

国際 VHF 無線電話装置	Marine VHF radio telephone	JHS-32B	JRC
ナビテックス受信装置	Navigation telex	NCR-333	JRC
衛星用 EPIRB	Emergency position indicating radio beacon	JQE-3A	JRC
双方向無線電話装置	Two-way VHF transceiver	JHS-7	JRC
レーダートランスポンダ	Search and rescue radar transponder	JQX-30A	JRC



無線区画-1 / [Radio equipment area-1](#)



無線区画-2 / [Radio equipment area-2](#)

漁労及び観測支援設備 Fishery and oceanographic research support systems

CTD ウインチ	CTD winch	1 set	8.1mm φ × 2000m	ダイナコン 10030
船首観測ウインチ	Fore part survey winch	1 set	6.0mm φ × 1000m	川崎プロレジジョンマシナリ
曳網ウインチ	Trawl winch	2 sets	12mm φ × 2000m	川崎プロレジジョンマシナリ
観測ウインチ	Oceanographic survey winch	1 set	3.0mm φ × 1500m	川崎プロレジジョンマシナリ
起倒式 A フレーム	A-frame for survey	1 set		川崎プロレジジョンマシナリ
起倒式ランプドア	Ramp door	1 set		川崎プロレジジョンマシナリ
船首観測ダビット	Fore part survey davit	2 sets		川崎プロレジジョンマシナリ
CTD クレーン	CTD crane	1 set	HIAB 081	HIAB
魚網監視装置	Fishing net watch system	1 set	SCANMAR	日本海洋



CTD ウインチ / CTD winch



船首観測ウインチ
/ Fore part survey winch



曳網ウインチ / Trawl winch



観測ウインチ
/ Oceanographic survey winch



起倒式 A フレーム及び起倒式ランプドア
/ A-frame and Ramp door for survey



船首観測ダビット
/ Fore part survey davit



CTD クレーン
/ CTD crane

調査研究設備 Research equipment

CTD測定装置 (多筒採水器付)	CTD octopus system and water sampling bottles	SBE- 9plus, SBE- 11 plus 10L×12 本	EMS
多層式超音波流速計	Acoustic Doppler current profiler	Teledyne RD Instruments WHD300kHz	HSD
表層連続観測装置	Surface CTD self-recorder	SEB-45, BBE 社 AOA	日本海洋
海底地形探査装置	marine topography profiling system	HS-600	古野電気
船内 LAN システム	Ship LAN system	JEE ソルデック	日本海洋
水中テレビカメラ装置	Underwater TV vehicle	RTV-100MK II	三井造船
実体顕微鏡	Actual objects microscope	ZEISS Stemi 2000	日本海洋
ダイビング用空気圧縮機	Diving air compressor	田邊空気機械製作所 V-11	日本海洋
生物飼育水槽 2 個	Aquarium for keeping live samples ×2 sets	250 リットル WTCA-401L	日本海洋
試料保存用冷凍冷蔵庫	Storage freezer for experimental substances	SJ-54H-S	SANWA
低温恒温器	Incubator	FLT-15	日本海洋
バンドン採水器	Van-Dorn water bottle	10L×2 本	離合社
スミスマッキンタイヤ採泥器	Smith-Macintyre sediment grab sampler	小型 0.05m ² , 中型 0.1m ²	離合社
エクマンバージ採泥器	Ekman-Berge sediment sampler	小型 0.02m ² , 大型 0.04m ²	離合社
小型簡易ドレッジ	Dredge	0.5m×0.2m	離合社
G.S.型表層採泥器 (アシュラ)	G.S.type core sampler (ASYURA)	柱状採泥器×3 本	離合社
鉛直多層式開閉ネット	Vertical multiple plankton net	VMPS1000	鶴見精機
表中層プランクトン採集網	Surface-mid layer plankton net	LCP-003	ニチモウ
表中層稚魚採取網	Plankton and larva net	LC-20M-SMR	ニチモウ
底魚採集底曳網	Kite type trawl net	LC-V1	ニチモウ
ビームトロール (桁網)	Beam trawl net		
ニューストーンネット	Neuston net		
アイザックキッド	IKMT net		
ORI ネット	Ocean Research Institute net		
ソリネット	Sled net		



CTD 測定装置 (多筒採水器付)
/ CTD octopus system /
and water sampling bottles



水中テレビカメラ装置
Underwater TV vehicle



セミドライ研究室／Laboratory (semi dry)



ウェット研究室／Laboratory (wet)

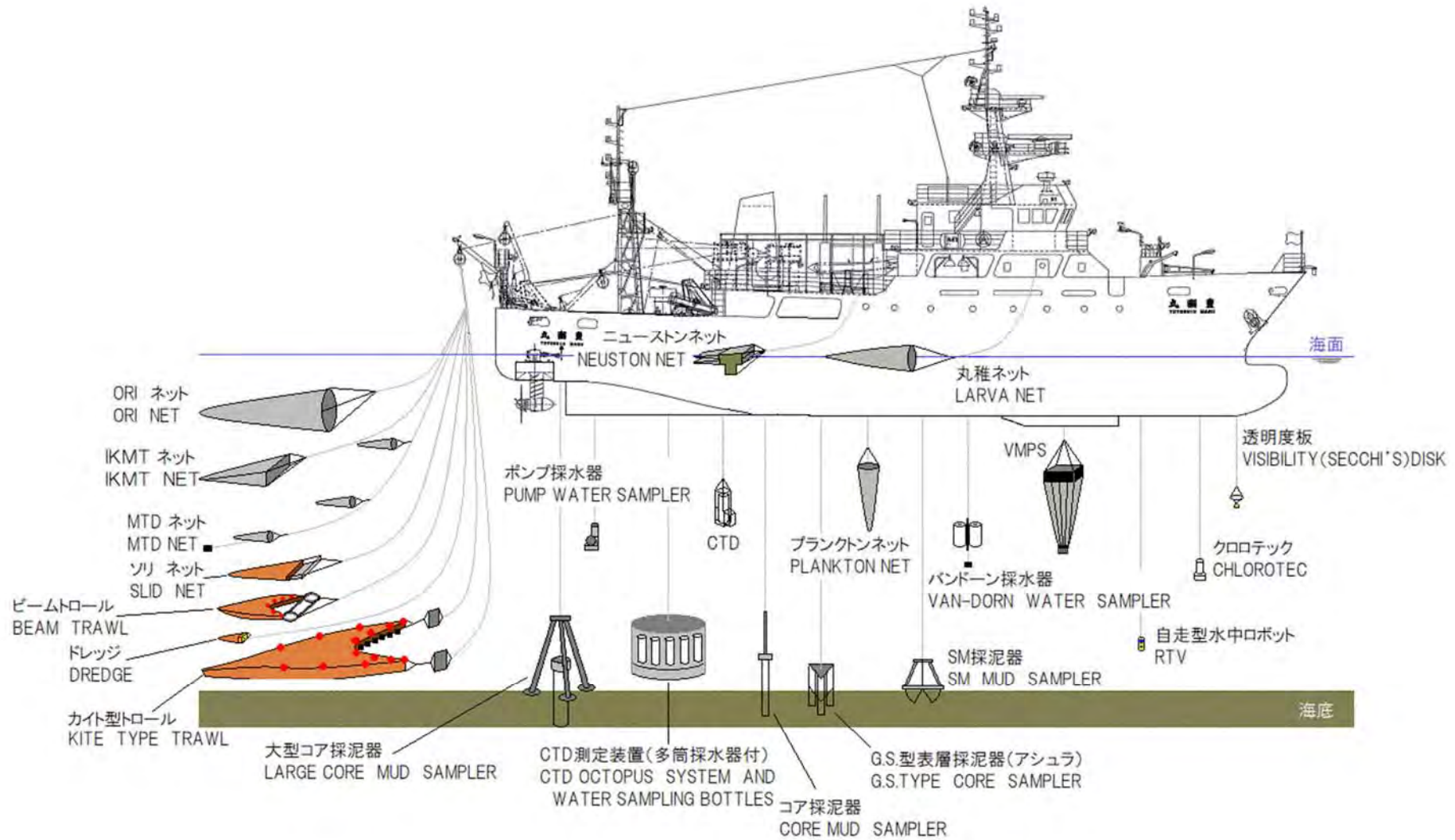


映像配信装置／Television image transmitter system



船内情報指示装置
／Monitoring system for ship information

海洋調査機器概略図 Oceanographic instruments



生活環境設備 Living quarters



教室兼学生食堂 / Student lecture and mess room



船員食堂 / Crew mess room



教員室 / Professor's room



学生室 / Student room



調理室 / Galley

広島大学生物生産学部附属練習船基地

〒737-0029 広島県呉市宝町7番4号

Kure Marine Station

School of Applied Biological Science, Hiroshima University

7-4, Takara-machi, Kure, Hiroshima, 737-0029 JAPAN

TEL:0823-23-4853 FAX:082-553-0237

URL: <https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp>

附属練習船豊潮丸

Training and Research vessel TOYOSHIO MARU

TEL:080-1926-4877 FAX:082-553-0237

URL: <https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp>

広島大学 東広島地区 運営支援部

生物学系総括支援室

〒739-8528 広島県東広島市鏡山一丁目4番4号

TEL : 082-424-7904 FAX : 082-424-7947

URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/ilife>